

NISSHIN

特化則非該当

ウレタン塗膜防水工法

セピロン防水

日新工業株式会社

新世代のウレタン塗膜防水 セピロン

現代の建築工事にとって、ウレタン塗膜防水は欠かせない存在です。

ウレタン塗膜防水が登場して50年以上を経た今日、
環境負荷の低減や高耐久性などの課題に取り組みながら
最新のテクノロジーから生まれた新世代のウレタン防水工法。

それが「セピロン防水工法」です。

セピロン防水工法には、環境に配慮し、冬期でも翌日に硬化する程の速硬化性を誇る標準仕様
全てが「特化則非該当」の「セピロンQ工法」と、より環境面に対応し、無溶剤型ウレタンを
使用し、標準仕様全てが「特化則・有機則非該当」の「セピロンE工法」があります。

また、ウレタン防水材と改質アスファルトシートを併用した複合絶縁防水「セピロンM工法」も
用意しております。

クリーンで安全、そして施工性に優れたセピロン防水工法は、オフィスビルや学校、マンション
など新築工事はもとより、改修工事にも大きなアドバンテージを生み出します。

標準仕様は、F☆☆☆☆を取得した材料を使用しています。

セピロン防水工法の特長

優れた安全性

セピロンコート類は「労働安全衛生法／特定化学物質障害予防規則」（特化則）において、特定化学物質に指定されている「MOCA」を使用しておりません。また、「TDI」の含有量も1%未満です。

特にセピロンE工法に使用するセピロンコートE類は、「MOCA」はもちろん厚生労働省及び文部科学省の指針値で規定されている、キシレン、トルエン、ホルムアルデヒドなどの**13物質**を全く使用しておりません。（P.26参照）

●セピロン防水における特定化学物質（TDI, MOCA）含有について

分類	製品名	主 剤 対象物質：(TDI) トリレンジイソシアネート	硬化剤 対象物質：(MOCA) 3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン
防水材	セピロンコートQ	対象外	未使用
	セピロンコートQV	対象外	未使用
	セピロンコートE	対象外	未使用
	セピロンコートEV	対象外	未使用
プライマー類	—	対象外	未使用
トップコート類	—	対象外	未使用
副資材		未使用	

対象外:原料自体は使用しておりますが、トリレンジイソシアネート(TDI)の含有量が規制値以下(1%以下)となります。

未使用:原料自体を含有しておりません。

優れた作業性(速硬化性)と工期の短縮

セピロンコートは塗り易いことはもちろん、更に専用硬化促進剤を併用すると、より短時間で硬化させることができます。このため、大きく工期を短縮することが可能です。

歩行が可能

セピロン防水は、耐摩耗性・耐衝撃性に優れているので、開放廊下やベランダ、ルーフバルコニー等、歩行頻度の高い床でも使用できます。(スポーツ床仕上げとする場合は、ご相談ください。)

シームレスで、仕上がりが綺麗

平場用の防水材は、セルフレベルリング性を備えており、他の防水材よりシームレスで美観に優れた防水層が形成できます。

軽量で、屋根に負担をかけない

セピロン防水材は、薄膜で防水性の強い塗膜が形成できます。その為、屋根にかかる荷重を軽減できます。

複雑な形状の下地に対応

セピロン防水材は、塗膜防水であるため、シート系防水材が苦手としている複雑な納まりの施工箇所に適しております。

厳冬期でも翌日硬化

セピロン防水材は、硬化促進剤を併用することにより、厳冬期でも翌日硬化が可能で、夏期には1日2工程を行うことも可能です。

確かな防水性能

セピロンコートの硬化被膜は、650%以上の伸び率を有します。このため、下地の挙動にも追従でき、確かな防水性能が得られます。

JIS規格に適合する確かな品質

セピロンコート類は、「JIS A 6021〔建築用塗膜防水材〕ウレタンゴム系高伸長形」に適合する製品です。

色彩豊かな防水層の形成

セピロン防水用の保護塗料は、様々な着色が可能であり、色彩豊かな防水層の形成が可能です。

目次

ページ

セピロン防水工法の特長	3
仕様の見方、仕様適合表、各工法の特長	4-5
防水仕様	6-15
トップコートについて	16
技術資料	17-24
納まり図	25-27
材料一覧	28-33
セピロン防水の施工上の注意	34-35

仕様の見方

U

セピロン防水工法

F

工法の種類

30

防水層の厚さ

E

防水材のタイプ

N

絶縁シートの種類

- E

トップコートの種類

● **工法の種類**

F	密着工法
D	絶縁工法
B	ベランダ、庇、パラペット工法
M	改質アスファルトシート複合絶縁工法
T	トップコート塗り替え

● **防水層の厚さ**

15	平均 1.5 mm
20	平均 2.0 mm
30	平均 3.0 mm
40	平均 4.0 mm

● **防水材のタイプ**

Q	環境配慮型（平場）
QV	環境配慮型（立上り）
E	環境対応型（平場）
EV	環境対応型（立上り）

● **絶縁シートの種類**

A	USシート A（穴あり）
N	USシート N（穴なし）

● **トップコートの種類**

Q	USToppコートQ	環境配慮		
C	USToppクール	環境配慮	遮熱	
CW	USToppクール 2回塗り	環境配慮	遮熱	
E	USToppコートEX	環境対応		HALS
EW	USToppコートEX 2回塗り	環境対応		HALS 高耐候
EC	USToppクールEX	環境対応	遮熱	HALS
ECW	USToppクールEX 2回塗り	環境対応	遮熱	HALS 高耐候
S	USToppコートSi	環境対応	シリコン	HALS 高耐候
SW	USToppコートSi 2回塗り	環境対応	シリコン	HALS 高耐候
SC	USToppクールSi	環境対応	シリコン 遮熱	HALS 高耐候
SCW	USToppクールSi 2回塗り	環境対応	シリコン 遮熱	HALS 高耐候
A	USToppコートAL	環境配慮		

仕様適合表

仕様記号	工 法	適用部位					
		屋 上	ルーフバルコニー	ベランダ	架台(笠木・庇)	廊 下	階 段
UF	密着工法(メッシュあり)	○	○	○	○	○	○
UD	絶縁工法	○	○				
UM	改質アスファルト複合絶縁工法	○	○				
UB	密着工法(メッシュあり、なし)			○	○	○	○

各工法の特長

●UF工法

メッシュを併用する密着工法です。形状の複雑な部位にも施工が容易です。下地との密着性に優れます。

●UD工法

絶縁シート「USシートA(N)」を使用する、絶縁工法です。脱気筒と併用することにより、下地からの湿気を排出し、フクレを抑制する効果があります。下地に湿気が溜まりやすい改修工事等に適した工法です。

●UM工法

改質アスファルトシートと、ウレタン防水材を組み合わせた複合絶縁工法です。アスファルトシートの耐久性、絶縁シートの通気性、ウレタン塗膜防水材の美観を併せ持つ工法です。(アスファルト防水の改修用シートとしても使用可能です)

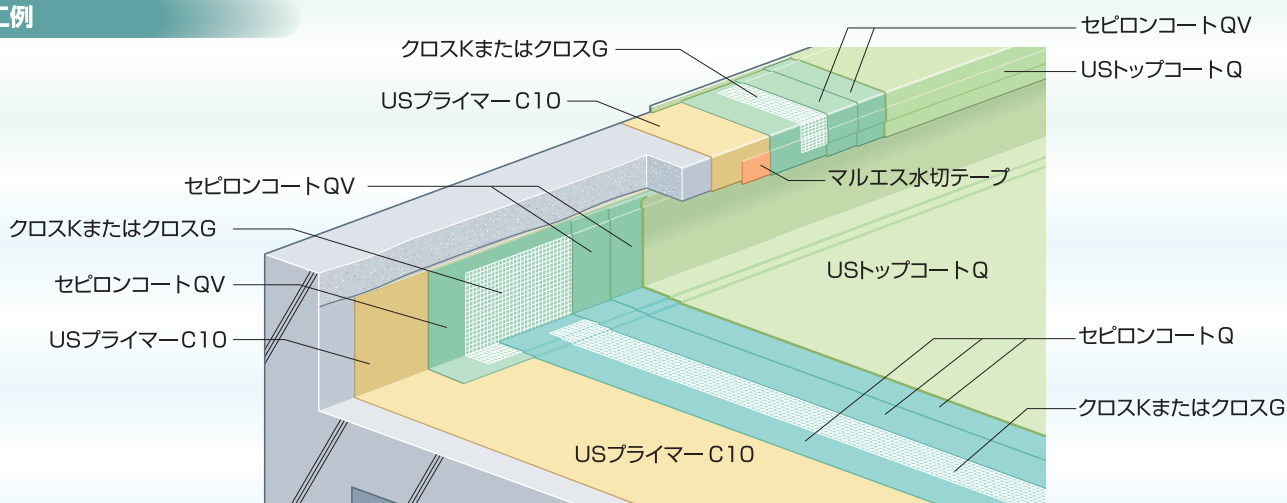
●UB工法

バルコニーや、開放廊下、階段等に適した工法です。形状が複雑で、メッシュを入りにくい場合に適した工法です。

環境配慮型 屋上防水仕様（密着工法）

	平場 UF20Q-Q	平場 UF30Q-Q	平場 UF40Q-Q	立上り(共通) UF20QV-Q
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートQ 1.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQ 1.7kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	セピロンコートQ 1.1kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	USToppコートQ 0.2kg/m ²	—
備考	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



高耐候・遮熱仕上材

USToppコートQに替えて、高耐候・遮熱トップコート仕上げとすることができます。

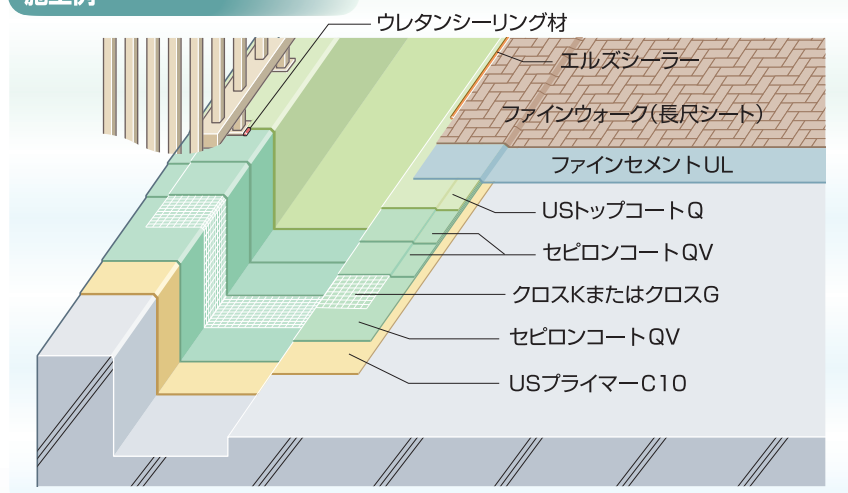
種類		仕様記号	工程1		工程2	
遮熱	ウレタン系	C	USToppクール	0.2kg/m ²	—	
		CW	USToppクール	0.15kg/m ²	USToppクール	0.15kg/m ²
		EC	USToppクールEX	0.2kg/m ²	—	
高耐候	シリコン系	S	USToppコートSi	0.2kg/m ²	—	
		SW	USToppコートSi	0.15kg/m ²	USToppコートSi	0.15kg/m ²
高耐候・遮熱	ウレタン系	ECW	USToppクールEX	0.15kg/m ²	USToppクールEX	0.15kg/m ²
		SC	USToppクールSi	0.2kg/m ²	—	
	シリコン系	SCW	USToppクールSi	0.15kg/m ²	USToppクールSi	0.15kg/m ²

※仕様記号はp. 4「仕様の見方」をご参照ください。

環境配慮型 ベランダ、パラペット、庇用仕様（密着工法）

	平場	立上り	平場	立上り	平場	立上り
	UB15Q-Q	UB15QV-Q	UB20Q-Q	UB20QV-Q	UB30Q-Q	UB20QV-Q
防水材 使用量	2.0kg/m ²		2.6kg/m ²		3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	1.5mm		2.0mm		3.0mm	2.0mm
1	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²	セピロンコートQ 0.3kg/m ²	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	USToppコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG ※	クロスKまたは クロスG ※	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG
4	—	USToppコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	—	—	セピロンコートQ 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	—	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—	—	—
備考	パラペット、庇のみ適用		※工程3を省略することもできます。 その際は、「メッシュなしの場合」をご参照ください。		■公共建築仕様 X-2同等	■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



●メッシュなしの場合

	平場	立上り
1	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²
2	セピロンコートQ 1.3kg/m ²	セピロンコートQV 1.3kg/m ²
3	セピロンコートQ 1.3kg/m ²	セピロンコートQV 1.3kg/m ²
4	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²

注意事項

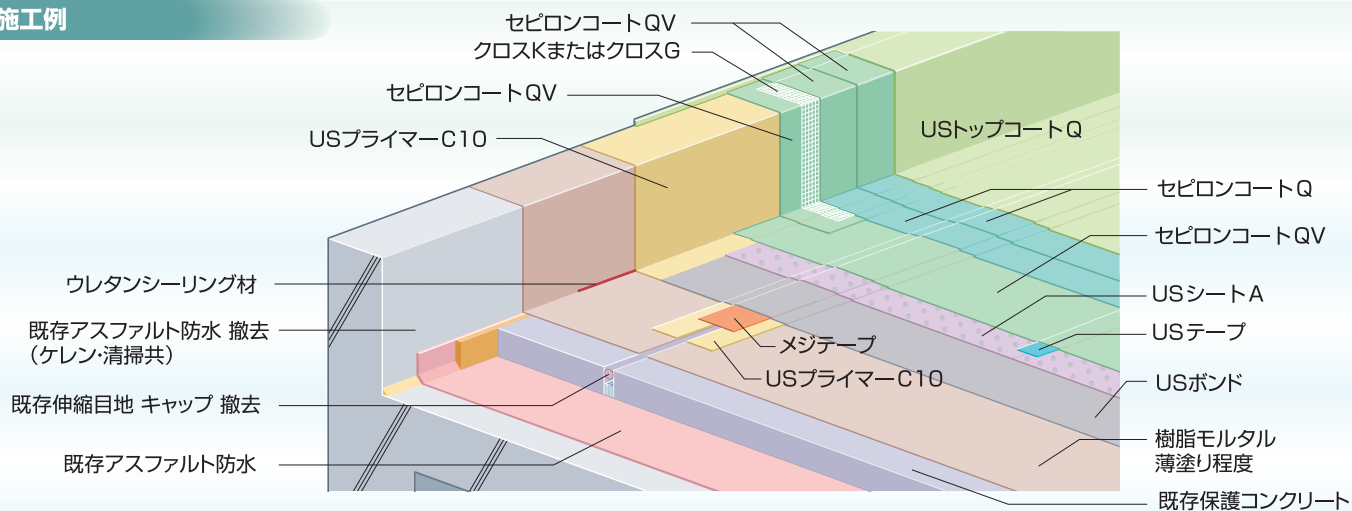
- USプライマーC10に替えてUSプライマーC30を使用することもできます。
- USプライマーC10(C30)は、USプライマーC1(C3)とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1の割合で混合したものです。ポルトランドセメントとの混合無しでも使用可能ですが、混合するとセメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。
- シルバー仕上げとする場合は、USToppコートQに替えてUSToppコートAL(0.2kg/m²)を使用します。
- スポーツ床仕上げとする場合は、弊社担当者へご相談ください。
- 粗面仕上げとする場合は、p.16「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートQに替えてセピロンコートQVを使用することもできます。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、USプライマーM6処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(p.20参照)
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。(p.17「プライマーの選択」参照)

環境配慮型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴ありタイプ

	平場 UD20QA-Q	平場 UD30QA-Q	平場 UD40QA-Q	立上り(共通) UF20QV-Q
防水材 使用量	2.7kg/m ²	4.0kg/m ²	5.3kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²
2	USシートA	USシートA	USシートA	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.5kg/m ²	セピロンコートQ 2.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	USToppコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 1.4kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²
備 考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



高耐候・遮熱仕上材

USToppコートQに替えて、高耐候・遮熱トップコート仕上げとすることができます。

種類		仕様記号	工程1		工程2	
遮 熱	ウレタン系	C	USToppクール	0.2kg/m ²	—	
		CW	USToppクール	0.15kg/m ²	USToppクール	0.15kg/m ²
		EC	USToppクールEX	0.2kg/m ²	—	
高耐候	シリコン系	S	USToppコートSi	0.2kg/m ²	—	
		SW	USToppコートSi	0.15kg/m ²	USToppコートSi	0.15kg/m ²
高耐候・遮熱	ウレタン系	ECW	USToppクールEX	0.15kg/m ²	USToppクールEX	0.15kg/m ²
		SC	USToppクールSi	0.2kg/m ²	—	
	シリコン系	SCW	USToppクールSi	0.15kg/m ²	USToppクールSi	0.15kg/m ²

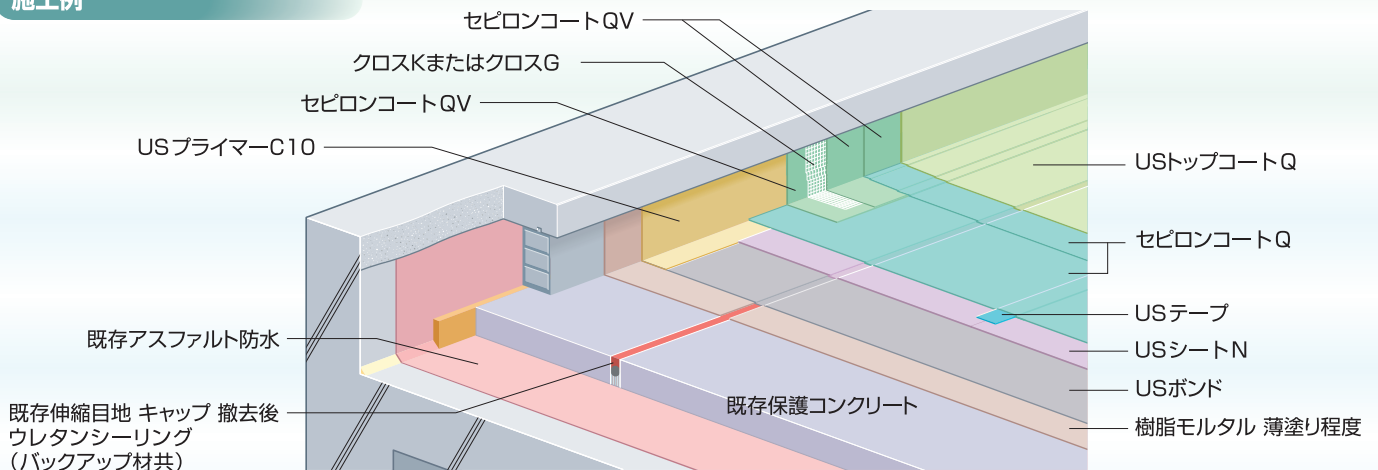
※仕様記号はp.4「仕様の見方」をご参照ください。

環境配慮型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴なしタイプ

	平場 UD20QN-Q	平場 UD30QN-Q	平場 UD40QN-Q	立上り(共通) UF20QV-Q
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²
2	USシートN	USシートN	USシートN	セピロンコートQV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQ 1.0kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQ 1.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートQ 1.6kg/m ²	セピロンコートQ 1.9kg/m ²	セピロンコートQ 2.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²
5	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²
6	—	—	USToppコートQ 0.2kg/m ²	USToppコートQ 0.2kg/m ²
備 考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



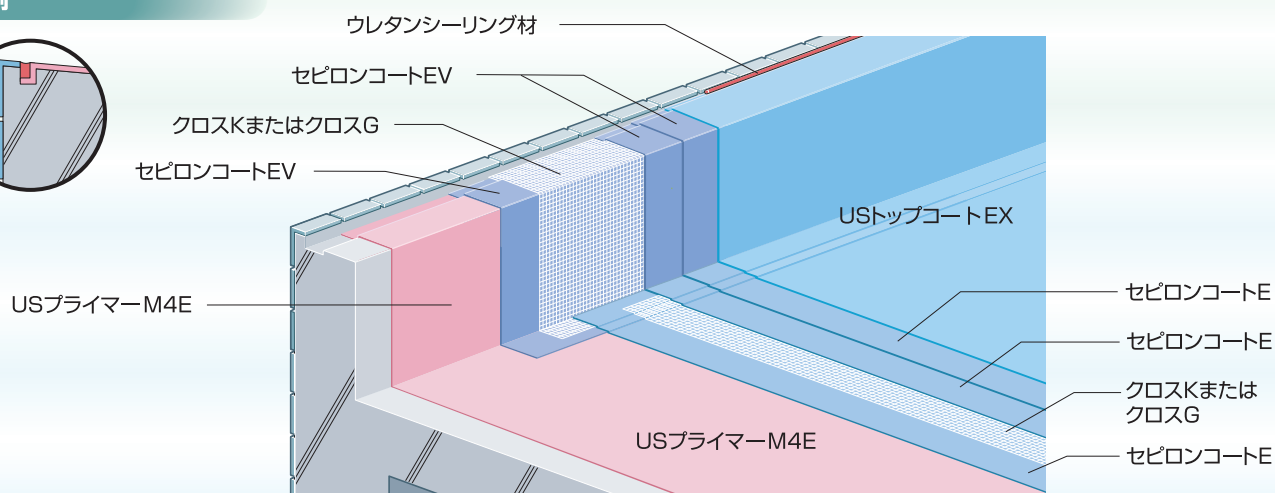
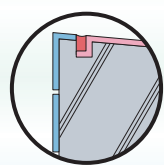
注意事項

- USプライマーC10に替えてUSプライマーC30を使用することもできます。
- USプライマーC10(C30)は、USプライマーC1(C3)とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1の割合で混合したものです。ポルトランドセメントとの混合無しでも使用可能ですが、混合するとセメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。
- シルバー仕上げとする場合は、USToppコートQに替えてUSToppコートAL(0.2kg/m²)を使用します。
- 粗面仕上げとする場合は、p.16「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 必要に応じて、USボンドに替えて溶剤タイプのボンドK(0.3kg/m²)を使用することもできます。
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートQに替えてセピロンコートQVを使用することもできます。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、USプライマーM6処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(p.20参照)
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。(p.17「プライマーの選択」参照)
- 絶縁工法には、脱気太郎(脱気筒)を併用することを推奨します。

環境対応型 屋上防水仕様（密着工法）

	平場 UF20E-E	平場 UF30E-E	平場 UF40E-E	立上り(共通) UF20EV-E
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USプライマーM4E 0.2kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートE 1.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートE 1.7kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	セピロンコートE 1.1kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	USToppコートEX 0.2kg/m ²	—
備考	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



高耐候・遮熱仕上材

USToppコートEXに替えて、高耐候・遮熱トップコート仕上げとすることができます。

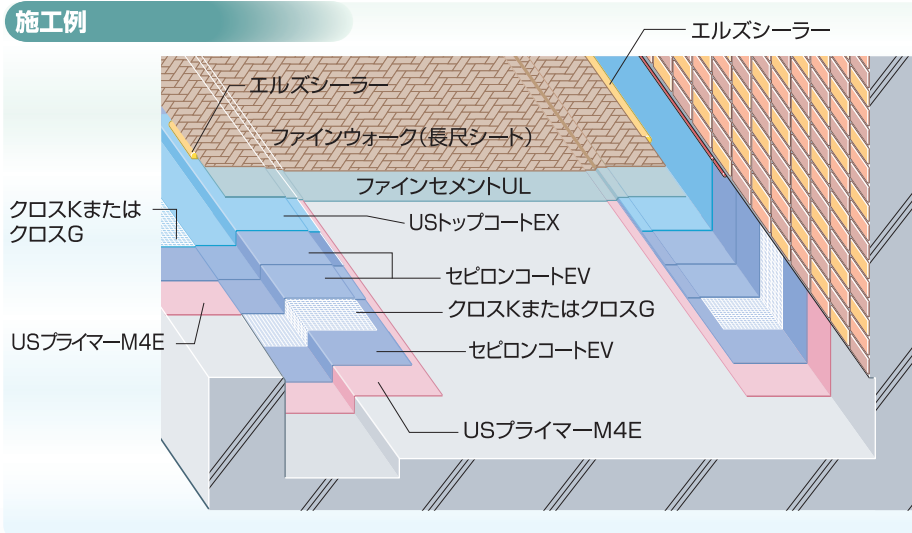
種類	仕様記号	工程1	工程2	
遮熱	ウレタン系 EC	USToppクールEX 0.2kg/m ²	—	
	高耐候	ウレタン系 EW	USToppコートEX 0.15kg/m ²	USToppコートEX 0.15kg/m ²
		シリコン系 S	USToppコートSi 0.2kg/m ²	—
	シリコン系 SW	USToppコートSi 0.15kg/m ²	USToppコートSi 0.15kg/m ²	
高耐候・遮熱	ウレタン系 ECW	USToppクールEX 0.15kg/m ²	USToppクールEX 0.15kg/m ²	
	シリコン系 SC	USToppクールSi 0.2kg/m ²	—	
	シリコン系 SCW	USToppクールSi 0.15kg/m ²	USToppクールSi 0.15kg/m ²	

※仕様記号はp. 4「仕様の見方」をご参照ください。

環境対応型 ベランダ、パラペット、庇用（密着工法）

	平場	立上り	平場	立上り	平場	立上り
	UB15E-E	UB15EV-E	UB20E-E	UB20EV-E	UB30E-E	UB20EV-E
防水材 使用量	2.0kg/m ²		2.6kg/m ²		3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	1.5mm		2.0mm		3.0mm	2.0mm
1	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²	セピロンコートE 0.3kg/m ²	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	USToppコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG※	クロスKまたは クロスG※	クロスKまたは クロスG	クロスKまたは クロスG
4	—	USToppコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	—	—	セピロンコートE 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	—	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²
7	—	—	—	—	—	—
備考	パラペット、庇のみ適用		※工程3を省略することもできます。 その際は、「メッシュなしの場合」をご参照ください。		■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等	

施工例



●メッシュなしの場合

	平場	立上り
1	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²	USプライマー-M4E 0.2kg/m ²
2	セピロンコートE 1.3kg/m ²	セピロンコートEV 1.3kg/m ²
3	セピロンコートE 1.3kg/m ²	セピロンコートEV 1.3kg/m ²
4	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²

注意事項

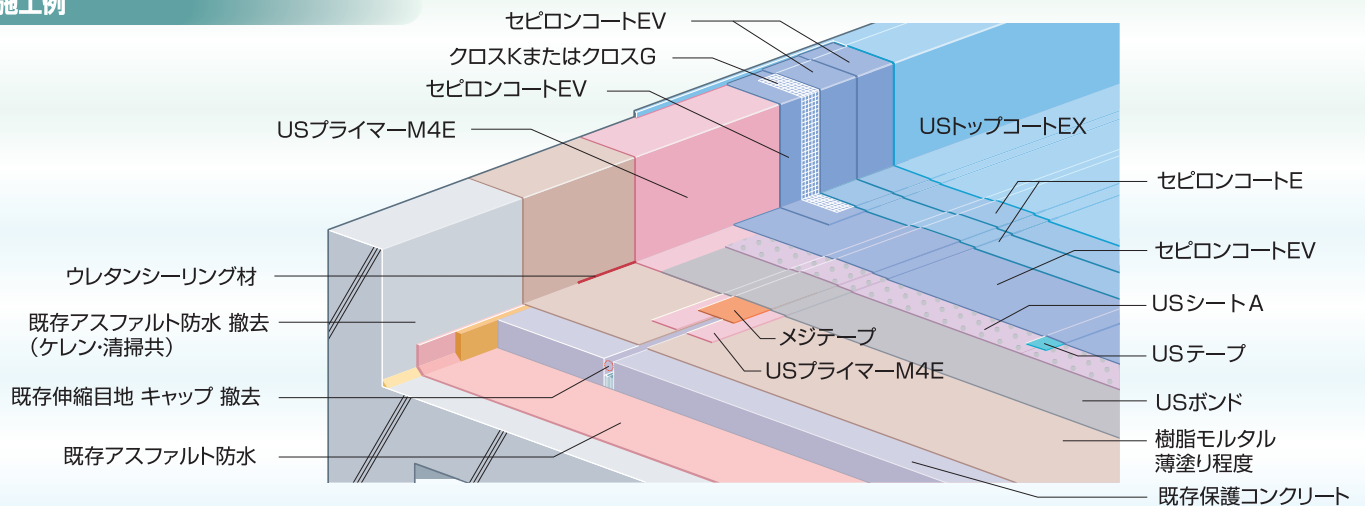
- USプライマー-M4Eに替えてUSプライマー-C30を使用することもできます。
- USプライマー-C30は、USプライマー-C3とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1で混合したものです。
ポルトランドセメントとの混合無しでも使用可能ですが、混合するとセメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。
- スポーツ床仕上げとする場合は、弊社担当者へご相談ください。
- 粗面仕上げとする場合は、p.16「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、USプライマー-M6処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(p.20参照)
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートEに替えてセピロンコートEVを使用することもできます。

環境対応型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴ありタイプ

	平場 UD20EA-E	平場 UD30EA-E	平場 UD40EA-E	立上り(共通) UF20EV-E
防水材 使用量	2.7kg/m ²	4.0kg/m ²	5.3kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²
2	USシートA	USシートA	USシートA	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.5kg/m ²	セピロンコートE 2.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	USToppコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 1.4kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²
備考	—	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



高耐候・遮熱仕上材

USToppコートEXに替えて、高耐候・遮熱トップコート仕上げとすることができます。

種類		仕様記号	工程 1		工程 2	
遮熱	ウレタン系	EC	USToppクールEX	0.2kg/m ²	—	
	ウレタン系	EW	USToppコートEX	0.15kg/m ²	USToppコートEX	0.15kg/m ²
高耐候	シリコン系	S	USToppコートSi	0.2kg/m ²	—	
	シリコン系	SW	USToppコートSi	0.15kg/m ²	USToppコートSi	0.15kg/m ²
高耐候・遮熱	ウレタン系	ECW	USToppクールEX	0.15kg/m ²	USToppクールEX	0.15kg/m ²
	シリコン系	SC	USToppクールSi	0.2kg/m ²	—	
		シリコン系	SCW	USToppクールSi	0.15kg/m ²	USToppクールSi

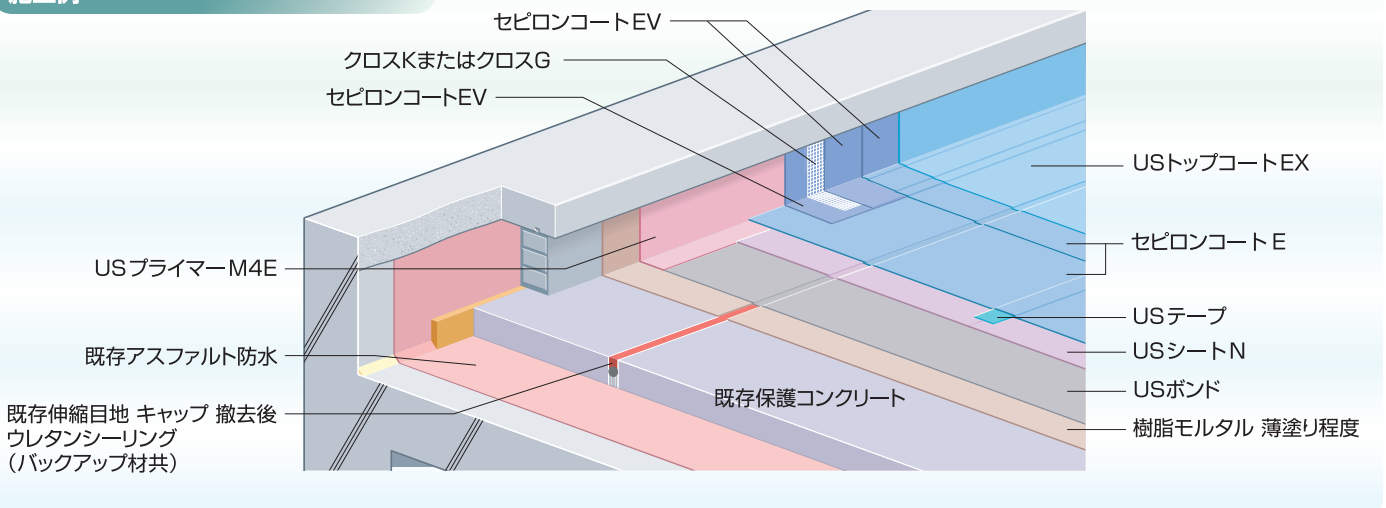
※仕様記号はp. 4「仕様の見方」をご参照ください。

環境対応型 屋上防水仕様（絶縁工法）

穴なしタイプ

	平場 UD20EN-E	平場 UD30EN-E	平場 UD40EN-E	立上り(共通) UF20EV-E
防水材 使用量	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	5.2kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	2.0mm	3.0mm	4.0mm	2.0mm
1	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USボンド 0.3kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²
2	USシートN	USシートN	USシートN	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートE 1.0kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートE 1.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートE 1.6kg/m ²	セピロンコートE 1.9kg/m ²	セピロンコートE 2.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²	セピロンコートE 2.0kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	—	USToppコートEX 0.2kg/m ²	USToppコートEX 0.2kg/m ²
備考	パラペット、庇のみ適用	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	—	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

施工例



注意事項

- USプライマーM4Eに替えてUSプライマーC30を使用することもできます。
- USプライマーC30は、USプライマーC3とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1で混合したものです。
ポルトランドセメントとの混合無しでも使用可能ですが、混合するとセメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。
- 粗面仕上げとする場合は、p.16「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、USプライマーM6処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(p.20参照)
- パラペット、庇の部位については、セピロンコートEに替えてセピロンコートEVを使用することもできます。
- 絶縁工法には、脱気太郎(脱気筒)を併用することを推奨します。

■ 屋上防水仕様（改質アスファルト複合絶縁工法）

環境配慮型

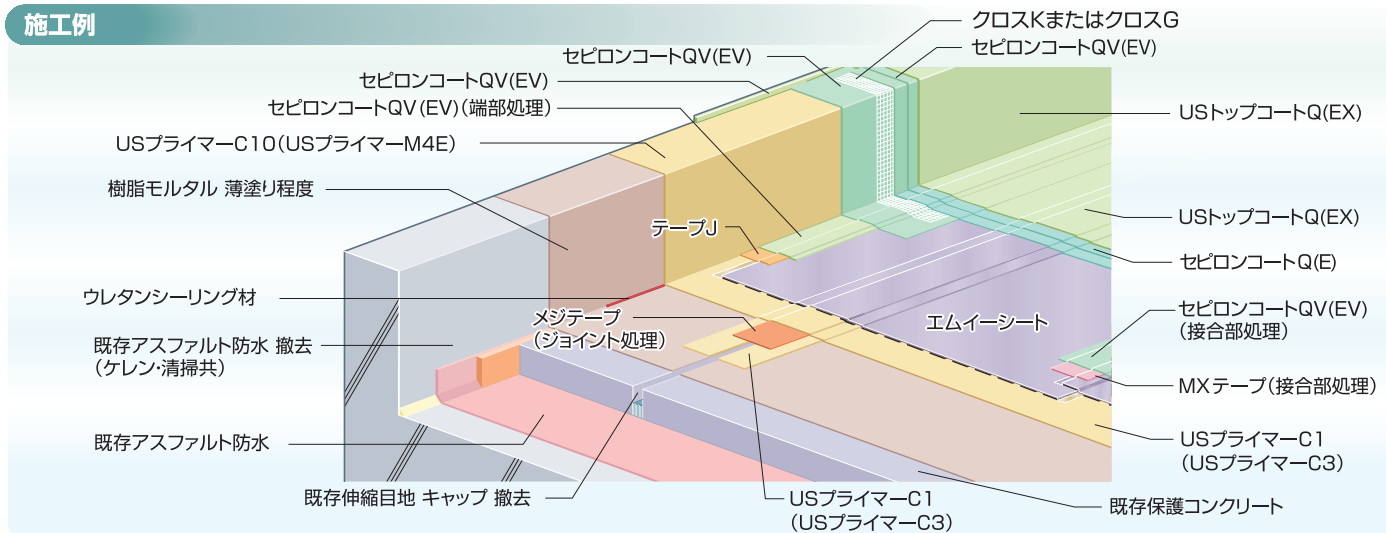
環境対応型

	平場 UM30Q-Q	立上り(メッシュ) UF20QV-Q	平場 UM30E-E	立上り(メッシュ) UF20EV-E
防水材 使用量	3.9kg/m ²	2.6kg/m ²	3.9kg/m ²	2.6kg/m ²
平均 塗膜厚	3.0mm	2.0mm	3.0mm	2.0mm
1	USプライマーC1 0.2kg/m ²	USプライマーC10 0.2kg/m ²	USプライマーC3 0.2kg/m ²	USプライマーM4E 0.2kg/m ²
2	エムイーシート (ジョイントの処理)	セピロンコートQV 0.3kg/m ²	エムイーシート (ジョイントの処理)	セピロンコートEV 0.3kg/m ²
3	セピロンコートQ 2.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG	セピロンコートE 2.0kg/m ²	クロスKまたは クロスG
4	セピロンコートQ 1.9kg/m ²	セピロンコートQV 1.2kg/m ²	セピロンコートE 1.9kg/m ²	セピロンコートEV 1.2kg/m ²
5	USToppコートQ ^{※1} 0.2kg/m ²	セピロンコートQV 1.1kg/m ²	USToppコートEX ^{※2} 0.2kg/m ²	セピロンコートEV 1.1kg/m ²
6	—	USToppコートQ ^{※1} 0.2kg/m ²	—	USToppコートEX ^{※2} 0.2kg/m ²
備考	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等	■公共建築仕様 X-1同等 ■JASS 8仕様 L-USS同等	■公共建築仕様 X-2同等 ■JASS 8仕様 L-UFS同等

※1. UStoppコートQを高耐候・遮熱トップコートに変更することができます。(p.8参照)

※2. UStoppコートEXを高耐候・遮熱トップコートに変更することができます。(p.12参照)

施工例



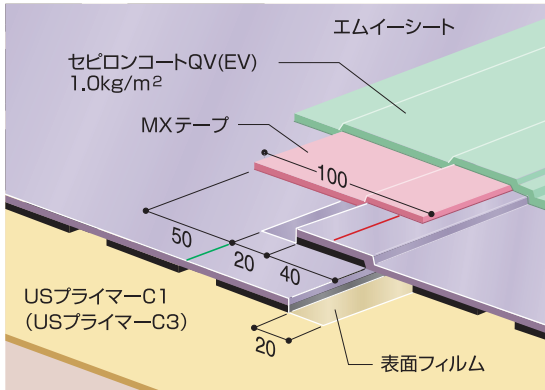
※括弧内は環境対応型工法の製品です。

注意事項

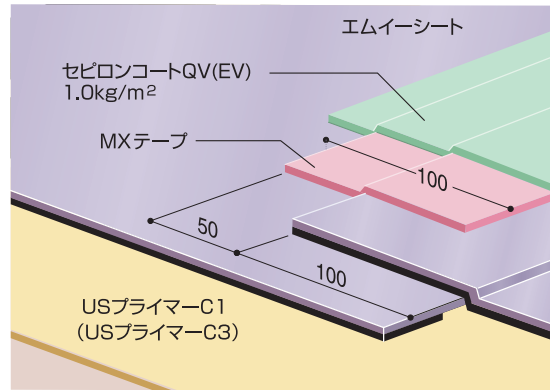
- USプライマーC10・M4Eに替えてUSプライマーC30を使用することもできます。
- USプライマーC1 (C3)に替えてカスタムプライマー-Eを、又寒冷期には環境配慮型のみカスタムプライマーを使用することも出来ます。
- USプライマーC10 (C30)は、USプライマーC1 (C3)とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1の割合で混合したものです。ポルトランドセメントとの混合無しでも使用可能ですが、混合するとセメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。
- シルバー仕上げとする場合は、USToppコートQに替えてUSToppコートAL (0.2kg/m²)を使用します。
- 粗面仕上げとする場合は、p.16「粗面仕上げの方法」をご参照ください。
- 脱気太郎(脱気筒)を併用することを推奨します。
- エムイーシート裏面の粘着層は接着剤(0.3kg/m²)と同様の動きをします。
- 3日以内に次工程に移れない場合は、USプライマーM6処理を行ってから、次工程の塗布を行ってください。(p.20参照)
- 施工対象下地によってプライマーを使い分ける場合があります。(p.17「プライマー選択」参照)

施工詳細図

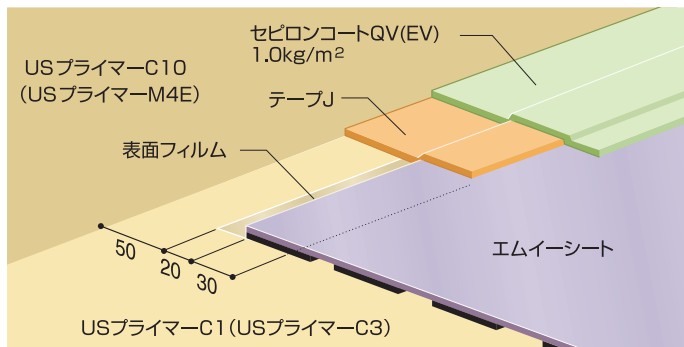
長辺接合部処理



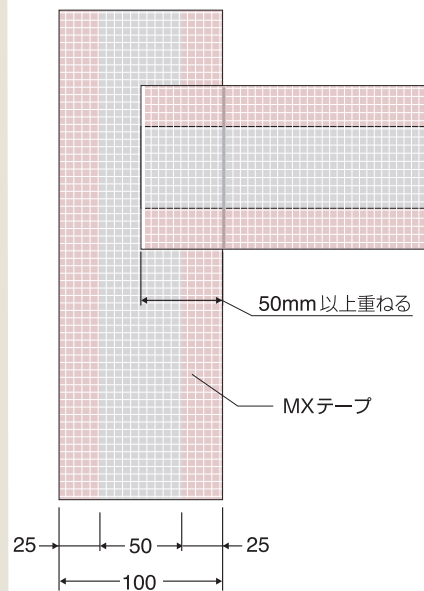
短辺接合部処理



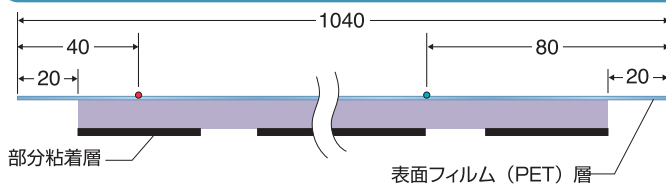
端部処理



短辺・長辺重ね部



Emuシートの幅方向シート断面図



作業内容と注意事項

- **プライマーの塗布** Emuシートの端末部分(入隅・コーナー周辺)は特に念入りに塗布します。(薄塗り禁止)
- **墨出し・割り付け** 入隅線から50mm程度離れた位置に基準線を引き、墨出し作業を行います。
- **Emuシートの張付け** 墨出し線に沿ってEmuシートを一旦展開し、端部は入隅線から50mm程度離れた位置でカットします。
※張り始めシートの表面の赤ラインを水下側にします。
 - ① 展開し、位置決めしたシート的一方を一人が足で動かない様に固定し、もう一人がもう片側から半分の位置までシートを巻き戻し、巻き戻したシートの剥離フィルムをハサミ、カッターでカットします。
※シート自体を切らないように注意してください。
 - ② カットした剥離フィルムを手に持ち、剥離フィルムをゆっくり引きながら、シートを展開し下地に張付けます。
 - ③ 張付け後、もう半分の片側のシートを巻き戻し、同様に剥離フィルムをゆっくり引きながら、シートを展開し下地に張付けます。
 - ④ 次に張付けるシートは、赤線側の端部を、既に張付けたシートの緑線に合わせて、シートの位置決めをします。
 - ⑤ 1巻のシートを張付けたらすぐに全面をゴムローラーで十分に転圧してください。(ローラー刷毛による転圧はしないでください)
- **長辺接合部処理** 長辺部はシート同士を40mm程度重ねます。(端部のフィルムを除く)
- **短辺接合部処理** 短辺部はシート同士を100mm程度重ねます。
- **シート端末の跳ね上がり・反り・浮き防止処理** シートの芯材(ボール紙の芯)に近いほど、巻き癖があります。強い巻き癖は、短辺部や端末部の跳ね上がりや浮きになる場合があります。短辺部や端部は、シートを張付ける前に一旦、シートの巻き癖を取るために反対側(内側)に巻き戻して、テンションを掛けて癖を取ってください。
- **端部処理** Emuシートの端部が浮いていない事を確認した後、Emuシートの端部(外側)にテープJ(ブチルテープ)を張付け転圧します。
※Emuシートに浮きや反りがある場合は、必ずこの段階で修正します。(ウレタン塗膜防水材料を塗布する前に修正する)
増塗り処理: MXテープ及びテープJの上に、セピロンコートQ(E)Vを塗布し、増塗りします。セピロンコートQ(E)Vの刷毛目等が残ると、仕上がりに影響が出る場合がありますので、増塗りは平滑に仕上げてください。

トップコートについて

トップコート塗り替え仕様

通常トップコートは、定期的に塗り替えることを推奨しています。その際の工事は、下記の仕様になります。(有償)
 ※トップコート塗り替え仕様は防水保証がありません。

既存防水工法	仕様記号	下地処理	工程 1		工程 2	
セピロンQ工法	UT-QQ	高圧洗浄	USプライマーM6	0.15kg/m ²	USToppコートQ	0.2kg/m ²
	UT-QC				USToppクール	0.2kg/m ²
	UT-QEC				USToppクールEX	0.2kg/m ²
	UT-QS				USToppコートSi	0.2kg/m ²
	UT-QSC				USToppクールSi	0.2kg/m ²
	UT-QA				USToppコートAL	0.2kg/m ²
セピロンE工法	UT-EE	高圧洗浄	USプライマーM6	0.15kg/m ²	USToppコートEX	0.2kg/m ²
	UT-EEC				USToppクールEX	0.2kg/m ²
	UT-ES				USToppコートSi	0.2kg/m ²
	UT-ESC				USToppクールSi	0.2kg/m ²

粗面仕上げの方法

粗面仕上げとする場合は、下記の配合でトップコートと充填材を配合し、ローラー刷毛などで仕上げます。

トップコートの種類	充填材の種類	充填材の配合量(kg)	充填材の配合量(%)
USToppコートQ 1セット (14kg)	トップフィラー	0.42	約 3
USToppコートEX 1セット (15kg)	トップフィラー	0.42	約 3
USToppコートSi 1セット (15kg)	トップフィラー	0.42	約 3

※USToppクール、USToppクールEX、USToppクールSiにも添加可能ですが、日射反射率の低下が見られます。

添加方法は、USToppコートQと同様です。

※2回塗りの場合は2工程目のみ充填材を配合します。

プライマーの選択

セピロン防水工法は、施工対象となる下地によって、次のようにプライマーを使い分けます。

- ◎ :適用可能
 - :適用可能(層間プライマーとしても可能ですが、トップコートの層間は不可となります。)
 - :溶剤(キシレン)でよく拭き取った後に、プライマー塗布を行ってください。
 - :サンディング後、さらに溶剤(キシレン)でよく拭き取った後にプライマー塗布を行ってください。
- 空欄:適用不可

製品名	セピロン防水用プライマー								
	C10・C30 ^{*1}	C2	M2 ^{*2}	M3 ^{*3}	M4E	M5	M6	EPO	EPO(W) ^{*4}
成分	溶剤系 ウレタン 1成分+セメント	溶剤系 ウレタン 1成分	溶剤系 変性ウレタン 1成分	溶剤系 クロロプレン 2成分	水性 エポキシ 3成分	溶剤系 エポキシウレタン 2成分	溶剤系 エポキシウレタン 2成分	無溶剤系 エポキシ 2成分	溶剤系 エポキシ 2成分
荷姿	17kg	16kg	17kg (0.5kg)	主 剤:15kg 硬化剤: 1kg	A液: 4kg B液: 4kg 粉体: 8kg	主 剤: 4kg 硬化剤: 4kg	主 剤: 4kg 硬化剤: 4kg	主 剤:12kg 硬化剤: 4kg	主 剤:10kg 硬化剤: 5kg
塗布間隔の目安	3時間～3日	2時間～1日	3時間～2日	2時間～1日	3時間～2日	1時間～2日	1時間～2日	12時間～3日	12時間～3日
標準塗布量	0.2kg/m ²	適宣	0.15kg/m ²	0.2kg/m ²	0.2kg/m ²	0.2kg/m ²	0.1kg/m ²	0.3～0.5kg/m ²	0.4～0.6 kg/m ²
コンクリート・モルタル	◎	◎			◎			◎	◎
モルタル下地のペランダ・庇	◎	◎			◎			◎	◎
一般ウレタン防水材					○0.15kg/m ²		◎	◎	◎
セピロンコート					○		◎	○	○
トップコート塗り継ぎ							◎		
A L C	◎0.4kg/m ²	◎			◎0.4kg/m ²			◎	◎
石材			◎					◎	◎
磁器・タイル			◎					◎	◎
鉄			◎					◎	◎
アルミニウム			◎					◎	◎
ステンレス(脱気太郎)			◎					◎	◎
亜鉛鉄板			◎					◎	◎
銅板(マルエス銅ドレン)			◎						
鉛(マルエス鉛ドレン)							□	◎	◎
合板・ベニヤ	◎0.4kg/m ²							◎	◎
EPDM・加硫ゴム				◎					
塩化ビニル樹脂シート	◎ USプライマーM2(0.1kg/m ²) 塗布乾燥後、USプライマーM6(0.1kg/m ²)								
塩化ビニル(樹脂パイプ)			◎					◎	◎
FRP			■					■	■
エポキシ			◎					◎	◎
SBR系下地調整材	◎	◎	◎		◎			◎	◎
エポキシ系下地調整材	◎	◎	◎		◎			◎	◎
タールウレタン						◎ ^{*5}		◎	◎

注意点

- ※1: USプライマーC10(C30)は、USプライマーC1(C3)とポルトランドセメントを重量比1:0.5～1の割合で混合したものです。
- ※2: USプライマーM2適用下地はサンディングを推奨します。
- ※3: USプライマーM3は要使い切り(小分け不可)。ゴムシート下地は極力撤去してください。その場合はUSプライマーM4Eを塗布します。表面トップコートはサンディング必須、又は各種プライマーで接着試験を行ってください。事前確認にて、既存シートのプライマー塗布による膨潤確認が必要です。
- ※4: USプライマーEPO(W)は、粘度が高いためキシレンで5%希釈して使用してください。
- ※5: 配合比、主剤:硬化剤=1:1の混合物に対し、セメントを重量比で10～30%程度を混合して使用してください。塗布量は下地により異なりますが、0.2kg/m²が標準です。立面部は、1回で標準塗布量に達しない場合、2回塗りしてください。
- ※: USプライマーC2、C3、M3、M4E、M5、M6、EPOは無希釈でご使用ください。
- ※: 表中に塗布量が記載のあるものは、表中を標準とします。各種下地において吸い込みが激しい場合は適宜に塗布量を増やしてください。
- ※: EVA系下地は、別途ご相談ください。

材料特性

● 防水材

試験事項		製品名	セピロンコートQ	セピロンコートQV	セピロンコートE	セピロンコートEV	JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形	
引張性能	引張強さ (N/mm ²)	試験時温度 23℃	4.9	4.8	5.2	5.0	2.3 以上	
		試験時温度 -20℃	9.5	10	9.9	9.5	2.3 以上	
		試験時温度 60℃	3.7	3.6	3.8	4.0	1.4 以上	
	破断時の伸び率 (%)	試験時温度 23℃	917	770	840	650	450 以上	
		抗張積 (N/mm)	試験時温度 23℃	896	740	950	651	280 以上
		破断時のつかみ間の伸び率 (%)	試験時温度 23℃	612	536	510	360	300 以上
試験時温度 -20℃	482		470	450	280	250 以上		
	試験時温度 60℃	511	408	440	330	200 以上		
引裂性能	引裂強さ (N/mm)		20	18	22	20	14 以上	
加熱伸縮性能	伸縮率 (%)		-0.3	-0.3	-0.1	-0.3	-4.0 以上 1.0 以下	
劣化処理後の引張性能	引張強さ比 (%)	加熱処理	94	100	101	111	80 以上	
		促進暴露処理	76	77	88	102	60 以上	
		アルカリ処理	96	100	110	106	60 以上	
		酸処理	94	85	97	90	80 以上	
	破断時の伸び率 (%)	加熱処理	911	789	860	650	400 以上	
		促進暴露処理	919	700	780	580	400 以上	
		アルカリ処理	910	748	790	600	400 以上	
		酸処理	888	696	820	520	400 以上	
伸び時の劣化性状	加熱処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形があつてはならない		
	促進暴露処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし			
	オゾン処理	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし			
たれ抵抗性能	たれ長さ (mm)		0.0		0.0	いずれの試験体も 3.0 以下		
	しわの発生	—	異常なし	—	異常なし	いずれの試験体にもあつてはならない		
固形分 (%)			(主剤)97 (硬化剤)99	(主剤)97 (硬化剤)99	(主剤)100 (硬化剤)100	(主剤)100 (硬化剤)100	表示値 ± 3.0	
硬化物比重			1.3	1.3	1.3	1.3	表示値 ± 0.1	

● 絶縁シート・補強布

試験事項	製品名	USシートA	USシートN	クロスK	エムイーシート*
質量 (g/m ²)		220 ~ 260	195 ~ 245	50 ± 2	1000 以上
厚さ (mm)		1.2 ~ 1.6	1.2 ~ 1.6	0.30 ~ 0.35	1.0
引張強さ (N/5cm)	タテ	170 以上	450 以上	363 以上	135 以上 (N/cm)
	ヨコ	125 以上	350 以上	314 以上	130 以上 (N/cm)
材質		ポリエステル	ポリエステル	ポリエステル	改質アスファルト

*エムイーシートは JIS A 6013 の試験方法による。

防水材の可使・硬化時間の目安

セピロンコートQ(通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気 温 (°C)		-5			5			23			35
促進剤添加量 [*] (g/セット当り)		無	120	150	無	60	120	無	30	60	無
可使時間 (分)		120	60	35	60	30	20	40	30	20	20
指触乾燥 (時間)		22	5	4	8	4	3	4	3.5	3	3
歩行可能時間 (時間)		30	7	5	16	6	4	6	5	4	4

セピロンコートQV(通年用)		温度と可使・指触乾燥・硬化時間の関係									
気 温 (°C)		-5			5			23			35
促進剤添加量 [*] (g/セット当り)		無	60	120	無	30	60	無	30	60	無
可使時間 (分)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
指触乾燥 (時間)		9	—	—	8	—	—	4	—	—	—
硬化時間 (時間)		16	12	5	9	5	3	5	3	—	—

セピロンコートE(通年用)		温度と可使・指触乾燥・歩行可能時間の関係									
気 温 (°C)		-5			5			23			35
促進剤添加量 [*] (g/セット当り)		無	120	150	無	60	120	無	30	60	無
可使時間 (分)		120	60	35	60	30	20	40	30	20	20
指触乾燥 (時間)		22	5	4	8	4	3	4	3.5	3	3
歩行可能時間 (時間)		30	7	5	16	6	4	6	5	4	4

セピロンコートEV(通年用)		温度と可使・指触乾燥・硬化時間の関係									
気 温 (°C)		-5			5			23			35
促進剤添加量 [*] (g/セット当り)		無	60	120	無	30	60	無	30	60	無
可使時間 (分)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
指触乾燥 (時間)		9	—	—	8	—	—	4	—	—	—
硬化時間 (時間)		16	12	5	9	5	3	5	3	—	—

※促進剤は硬化促進剤VIを使用します。各種セピロンコート1セット(18kg)当りの添加量です。

※硬化促進剤は、主剤・硬化剤を混合攪拌後に添加するか、硬化剤にあらかじめ添加して使用します。決して主剤には添加しないでください。

また、使用においては適正な添加量を守ってください。

共通事項

- 可使時間：製品を使用することができる時間
- 指触乾燥時間：次工程に進める時間(歩くことはできないが手の届く範囲であれば塗布可能)
- 歩行可能時間：次工程に進め、塗布した製品の上も歩くことが出来るようになる時間

※全ての製品は、温度、湿度、天候、希釈剤の添加によって、表中の数値とは異なる場合があります。

プライマー・接着剤・トップコートの可使・硬化時間・塗布間隔等の目安

製品名	可使時間 (min)		指触乾燥時間 (h)		塗布間隔の目安
	23℃	5℃	23℃	35℃	
USプライマー C1	90	6	2	1.5	3時間～3日
USプライマー C10※1	60	5	2	1.5	3時間～3日
USプライマー C2	90	4	1	0.5	2時間～1日
USプライマー C3	90	5	2	1.5	3時間～3日
USプライマー C30※1	60	4	2	1.5	3時間～3日
USプライマー M2	90	12	5	3	3時間～2日
USプライマー M3※2	60	4	1.5	1	2時間～1日
USプライマー M4E	150	1	0.5	0.3	3時間～2日
USプライマー M5	50	3	1	1	1時間～2日
USプライマー M6	60	3	1.5	1	1時間～2日
USプライマー EPO	120	80	14	7	12時間～3日
USプライマー EPO(W)※3,4	30	16	14(15℃)	—	12時間～3日

※1 USプライマーC10・C30はUSプライマーC1・C3をポルトランドセメントと混合したものです。

※2 USプライマーM3は、一度開口したものは使用不可となります。

※3 USプライマーEPO(W)の硬化時間は括弧内の温度をご参照ください。

※4 USプライマーEPO(W)は、粘度が高いためキシレンで5%希釈して使用してください。

製品名	可使時間 (min)			指触乾燥時間 (h)			硬化時間 (h)		
	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃
USボンド(S)	—	50	20	—	—	—	—	4	2
USボンド(W)	60	30	—	—	—	—	5	2	—
ボンドK	—	—	—	—	10	—	—	—	—

製品名	可使時間 (min)	指触乾燥時間 (h)				硬化時間 (h)			塗布間隔の目安
		23℃	5℃	23℃	35℃	5℃	23℃	35℃	
USToppコートQ	180	3～4	2～3	1～2	6～7	4～5	3～4	3日以内	
USToppコートEX	180	3～4	2～3	—	—	7～8	—	3日以内	
USToppコートSi	180	3～4	2～3	—	—	7～8	—	3日以内	
USToppクール	180	3～4	2～3	1～2	6～7	4～5	3～4	3日以内	
USToppクールEX	180	3～4	2～3	—	—	7～8	—	3日以内	
USToppクールSi	180	3～4	2～3	—	—	7～8	—	3日以内	
USToppコートAL	120	3～4	2～3	1～2	7～8	4～5	3～4	3日以内	

プライマー・接着剤の硬化促進剤について

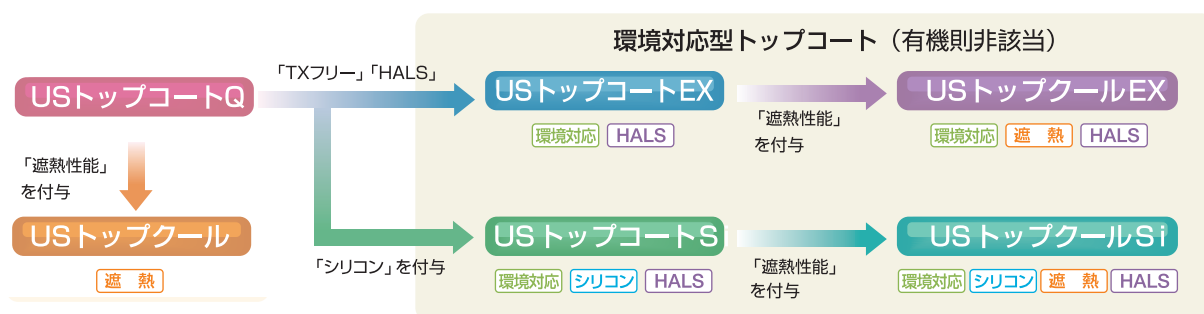
製品名	セット量 (kg)	硬化促進剤	添加量 (g/セット)	硬化時間 (h)		
				5℃	10℃	20℃
USプライマー C1	17	硬化促進剤V	200	2	1.5	1
USプライマー C2	16	硬化促進剤V	200	1	0.5	—
USプライマー C3	17	硬化促進剤V	200	2	1.5	1
USプライマー M2	17	硬化促進剤V	200	4	3	2
USボンド(W)	10	硬化促進剤V	5	3	—	—
			10	2	—	—

※ USボンドに添加する場合は、主剤・硬化剤を混合攪拌後に添加するか、硬化剤にあらかじめ添加して使用します。決して主剤には添加しないでください。また、使用においては適正な添加量を守ってください。

各種トップコートの特長

セピロン工法のトップコートは「シリコン」や「HALS」等を処方した「高耐候性トップコート」、遮熱性能を付与した「遮熱性トップコート」、「トルエン・キシレン未含有」の「環境対応品」を選択することが出来ます。

- **シリコン**：耐久性の向上が期待できます。
- **HALS**：紫外線(UV)に対して有効な構造を有しています。
- **遮熱**：近赤外線反射性能に優れた熱反射性顔料を使用することで、薄膜・濃色でも優れた遮熱効果を発揮します。又、防水層の温度を低減させるため、防水層の保護効果があります。
- **環境対応品**：トルエン・キシレン等を使用しない環境負荷を低減した製品(TXフリー)。
- **有機則非該当**：室内環境であっても有機溶剤中毒予防規則の規制を受けません。



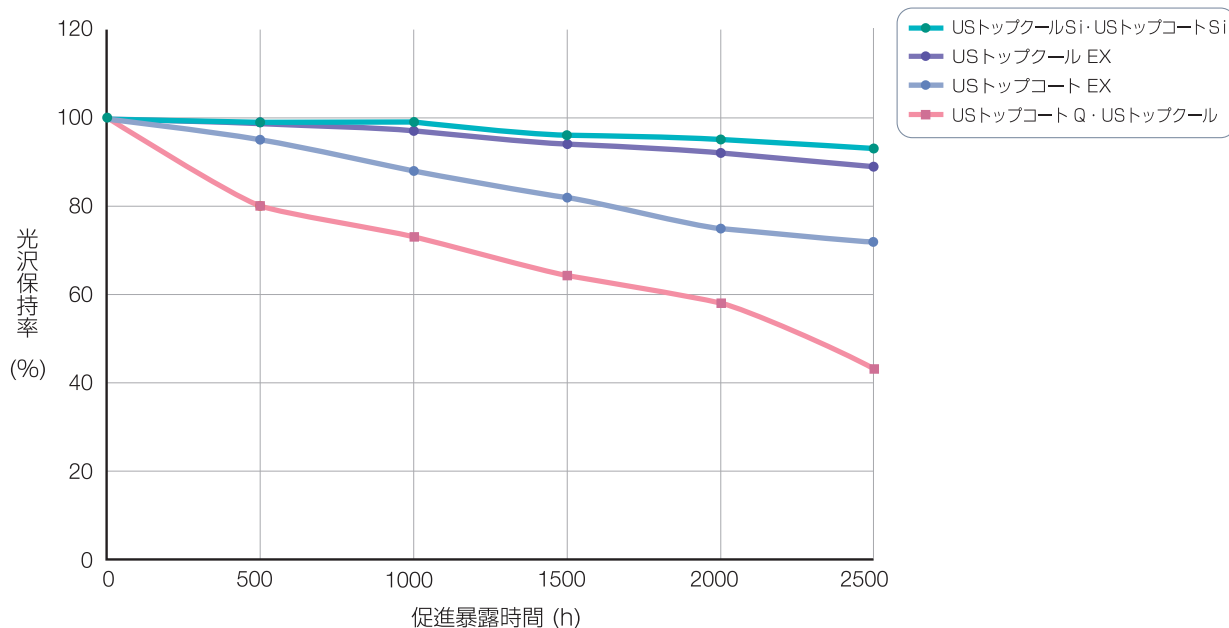
各種トップコートの促進耐候性試験結果

■ 試験方法

- XWOMによる促進耐候性試験 (60度 光沢保持率※)

※光沢保持率：初期光沢を100とし、一定期間暴露した時の光沢の保持率を表したもの

■ 各種トップコートの光沢保持率 (単膜)



試験はあくまでも促進暴露試験のデータであり、実際の環境下における品質の保証値ではありません。また、実際の環境下では暴風・温度・汚れの付着・下塗り材の影響等により光沢保持率は変動します。

USトップクールの特長

遮熱性トップコート

USトップクールは、遮熱性アクリルウレタン樹脂系トップコートです。近赤外線反射性能に優れた熱反射性顔料を使用することで、薄膜、濃色でも優れた遮熱効果を発揮します。防水層の温度が低減されるため、防水層の保護効果があります。

規格・特長

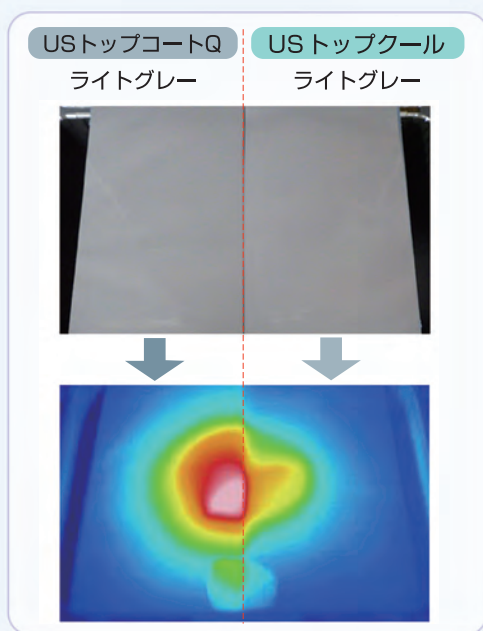
- 主 剤 7kg/缶 : 硬化剤 7kg/缶
(重量配合比 1 : 1)
- 日射反射性能に優れた塗料です。

製品名	日射反射率(%)
	近赤外線領域
USトップクール ライトグレー	74.4

JIS K 5602 「塗膜の日射反射率の求め方」による。 下地：ウレタン塗膜

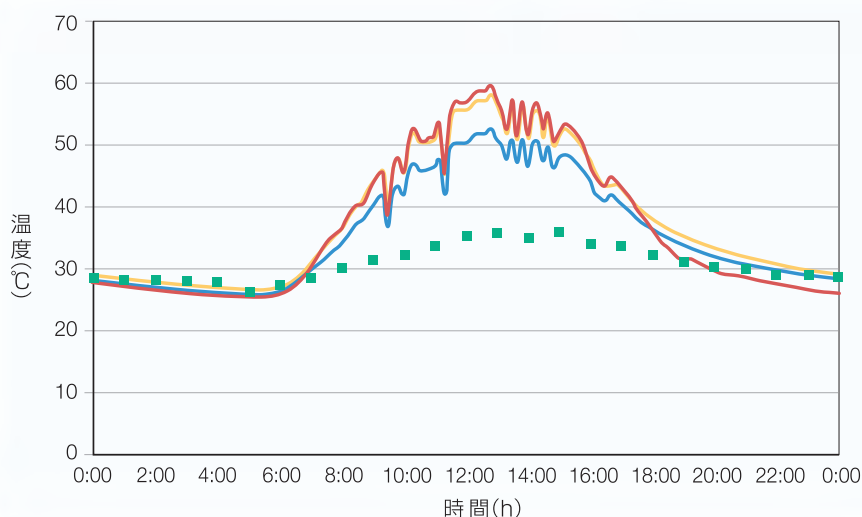
遮熱効果

■ ランプ照射によるサーモグラフィ画像



測定日時：令和2年8月29日 測定場所：埼玉県春日部市

製品名	色 調	最高温度	最高温度差(℃)
		(℃)	Qグレーとの比較
USトップクール	ライトグレー	52.8	-7.1
USトップコートQ	グレー	59.9	-
	ライトグレー	58.4	-1.5



- USトップコートQ グレー
- USトップコートQ ライトグレー
- USトップクール ライトグレー
- 気温

政令別表による危険物及び指定可燃物の指定数量と主要製品名

種別	指定数量	性質	製品名
第一石油類	200L (非水溶性)	引火点が21℃未満のもの	USプライマーC2、C3、M2、M3・M5・M6(主剤・硬化剤)、USTトップコートQ(硬化剤)、USTトップクール(硬化剤)、USTトップコートAL(硬化剤)、ボンドK
第二石油類	1,000L (非水溶性)	引火点が21℃以上70℃未満のもの	USプライマーC1、だれ止め剤、NSソルベント、キシレン、硬化促進剤V、VI、USTトップコートQ(主剤)、USTトップコートEX(主剤・硬化剤)、USTトップクールEX(主剤・硬化剤)、USTトップクール(主剤)、USTトップコートAL(主剤)、USTトップコートSi(主剤・硬化剤)、USTトップクールSi(主剤・硬化剤)、カスタムプライマー
第三石油類	2,000L (非水溶性)	引火点が70℃以上200℃未満のもの	セピロンコートQ(主剤)、セピロンコートQV(主剤)、USプライマーEPO(主剤・硬化剤)
第四石油類	6,000L	引火点が200℃以上250℃未満のもの	USボンド(主剤)、セピロンコートE(主剤)、セピロンコートEV(主剤)
指定可燃物 (可燃性液体類)	2m ³	—	セピロンコートQ(硬化剤)、セピロンコートE(硬化剤)
指定可燃物 (可燃性固体類)	3,000kg	—	USシートA、USシートN、エムイーシート、クロスK・KN、テープ類

セピロンE工法のVOC(揮発性有機化合物)の規制と使用材料の対応表

物質名称と対応	指針と基準				セピロンE工法に使用する製品 (下記に記載の13物質を原料に 使用していません)
	厚生労働省	文部科学省	国土交通省	国土交通省	
	室内濃度指針値	学校環境衛生の基準 室内濃度指針値	住宅性能表示制度 品確法	建築基準法	
ホルムアルデヒド	100μg/m ³ (0.08ppm)	100μg/m ³ (0.08ppm)	測定	使用制限	【プライマー類】 USプライマーC3 USプライマーM4E USプライマーM5 USプライマーM6 USプライマーEPO 【防水材】 セピロンコートE セピロンコートEV 【トップコート類】 USトップコートEX USトップクールEX USトップコートSi USトップクールSi 【その他】 NSソルベント、USボンド
トルエン	260μg/m ³ (0.07ppm)	260μg/m ³ (0.07ppm)	任意測定	—	
キシレン	200μg/m ³ (0.05ppm)	870μg/m ³ (0.20ppm)	任意測定	—	
パラジクロロベンゼン	240μg/m ³ (0.04ppm)	240μg/m ³ (0.04ppm)	—	—	
エチルベンゼン	370μg/m ³ (0.085ppm)	370μg/m ³ (0.085ppm)	任意測定	—	
スチレンモノマー	220μg/m ³ (0.05ppm)	220μg/m ³ (0.05ppm)	任意測定	—	
クロルピリホス	1μg/m ³ (※1) (0.07ppb)	—	—	使用禁止	
フタル酸ジ-n-ブチル	17μg/m ³ (1.5ppb)	—	—	—	
テトラデカン	330μg/m ³ (0.04ppm)	—	—	—	
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100μg/m ³ (6.3ppb)	—	—	—	
ダイアジノン	0.29μg/m ³ (0.02ppb)	—	—	—	
アセトアルデヒド	48μg/m ³ (0.03ppm)	—	任意測定	—	
フェノブカルブ	33μg/m ³ (3.8ppb)	—	—	—	

(※1) 小児の場合：0.1μg/m³ (0.007ppb)

建築基準法(飛び火)について

建築物を建てようとする地域によっては、防水層の選定に建築基準法の制約を受ける場合があります。防火地域では、市街地における火災を想定した、火の粉による建築物の火災の発生を防止するために、屋根を国土交通大臣が定めた構造方法を用いるか国土交通大臣の認定を受けたもの(飛び火認定)としなければなりません。

飛び火に関しては、「防火地域」「準防火地域」「22条地域※」がその制約を受けます。

※特定行政庁が防火地域・準防火地域以外の市街地について指定する区域内にある建築物の屋根

建築基準法では、防火地域、準防火地域内の建築物の屋根において、平成12年建設省告示第1365号(22条地域は第1361号)により、以下の様な構造方法を用いることが定められています。

構造	屋根がコンクリート造、ALC、PCaのいずれか、又は耐火構造(国土交通大臣認定含む)
勾配	30度以下
断熱材の厚さ	50mm以下、又はなし
防水材の種類	アスファルト防水(アスファルトシングル含む)、改質アスファルト防水、塩化ビニル樹脂系シート防水、加硫ゴム系シート防水、塗膜防水のいずれか

※上記のすべてを満たさない場合は、飛び火認定が必要です。

防火地域

準防火地域

22条(指定)地域

■建築基準法・施行例・告示 抜粋

一建築基準法第62条(旧第63条)一

防火地域又は準防火地域内の屋根の構造は、市街地における火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。

[施行令第136条の2の2]

法第62条の政令で定める技術的基準は、次に掲げるもの(不燃性の物品を保管する倉庫その他これに類するものとして国土交通大臣が定める用途に供する建築物又は建築物の部分で市街地における通常の火災による火の粉が屋内に到達した場合に建築物の火災が発生するおそれのないものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるものの屋根にあつては、第一号に掲げたもの)とする。

- 一 屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、防火上有害な発炎をしないものであること。
- 二 屋根が、市街地における通常の火災による火の粉により、屋内に達する防火上有害な溶融、き裂その他の損傷を生じないものであること。

[告示第1365号]

第一建築基準法施行令第136条の2の2各号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、次に定めるものとする。

- 一 不燃材料で造るか、又はふくこと。
- 二 屋根を準耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったものに限る。)とすること。

- 三 屋根を耐火構造(屋外に面する部分を準不燃材料で造ったもので、かつ、その勾配が水平面から30度以内のものに限る。)の屋外面に断熱材(ポリエチレンフォーム、ポリスチレンフォーム、硬質ポリウレタンフォームその他これらに類する材料を用いたもので、その厚さの合計が50mm以下のものに限る。)及び防水材(アスファルト防水工法、改質アスファルトシート防水工法、塩化ビニル樹脂系シート防水工法、ゴム系シート防水工法、又は塗膜防水工法を用いたものに限る。)を張ったものとする。

第二令第136条の2の2第一号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、第一に定めるもののほか、難燃材料で造るか、又はふくこととする。

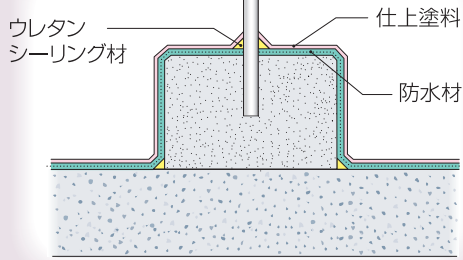
一建築基準法第22条一

特定行政庁が防火地域及び準防火地域以外の市街地について指定する区域内にある建築物の屋根の構造は、通常の火災を想定した火の粉による建築物の火災の発生を防止するために屋根に必要とされる性能に関して建築物の構造及び用途の区分に応じて政令で定める技術的基準に適合するもので、国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたものとしなければならない。ただし、茶室、あずまやその他これらに類する建築物又は延べ床面積が10m²以内の物置、納屋、その他これらに類する建築物の屋根の延焼のおそれのある部分以外の部分については、この限りでない。

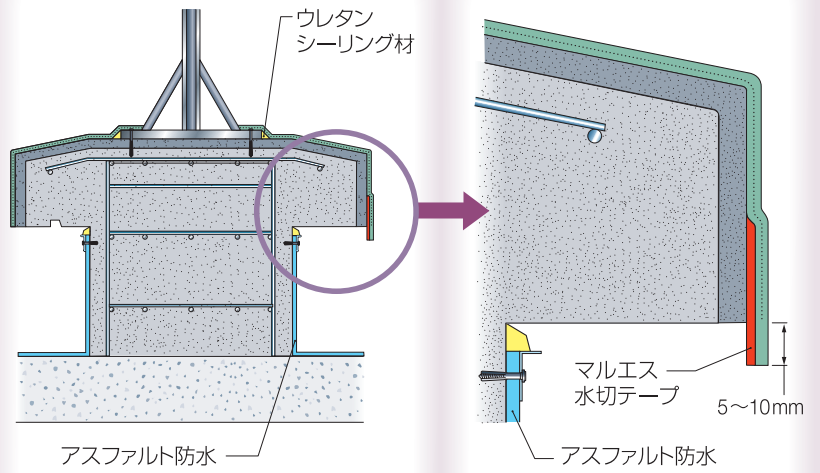
- 2 特定行政庁は、前項の規定による指定をする場合においては、あらかじめ、都市計画区域内にある区域については都道府県都市計画審議会(市町村都市計画審議会が置かれている市町村の長たる特定行政庁が行う場合にあつては、当該市町村都市計画審議会。第五十一条を除き、以下同じ。)の意見を聴き、その他の区域については関係市町村の同意を得なければならない。

基礎・パラペット・パイプ・脱気筒回り

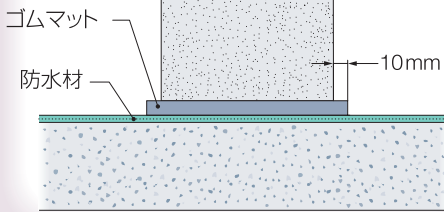
●固定基礎



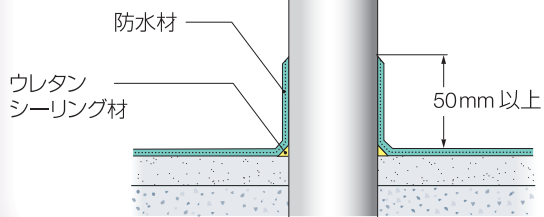
●パラペット回り



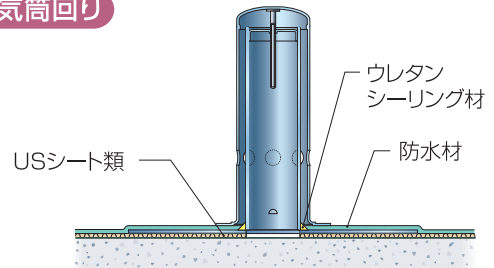
●置き基礎



●パイプ回り

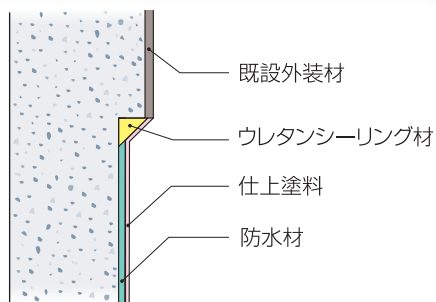


●脱気筒回り

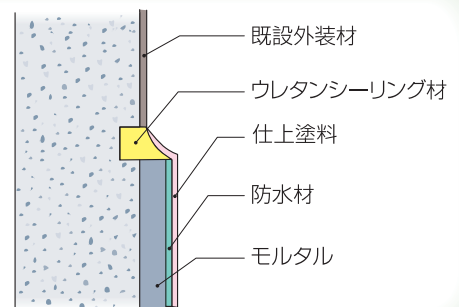


壁面取合

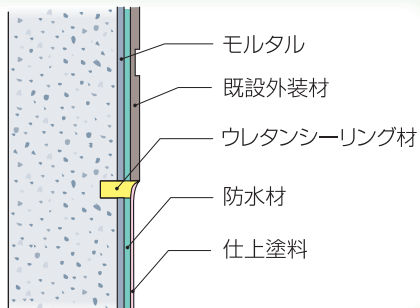
●入り巾木



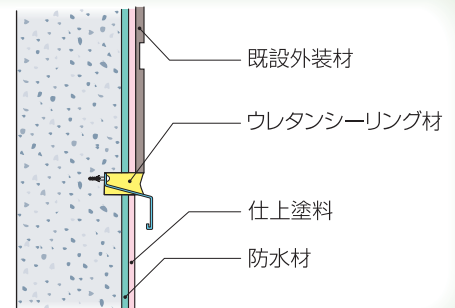
●出巾木



●入り巾木

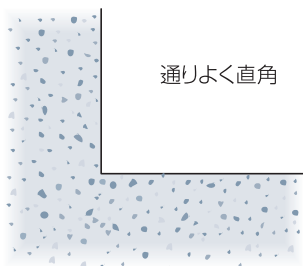


●出巾木

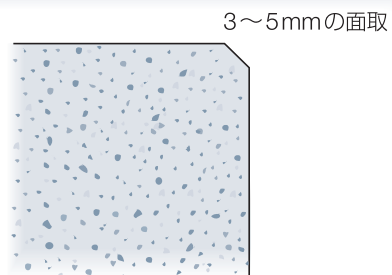


下地の処理

●入隅



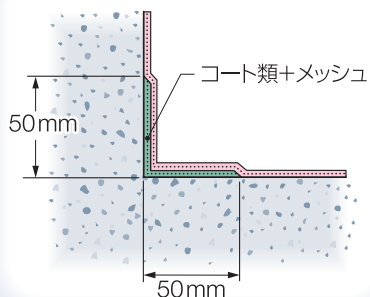
●出隅



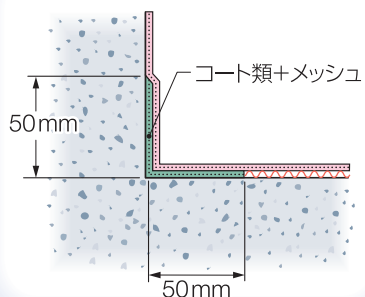
既存スラブが丸面取の場合は、そのまま施工可能です。

補強塗りの処理

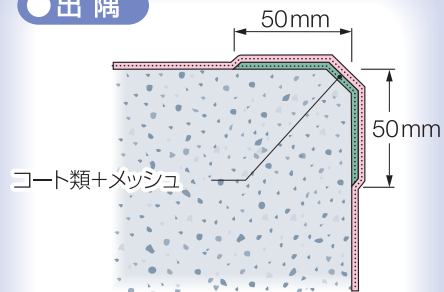
●入隅(密着工法)



●入隅(絶縁工法)

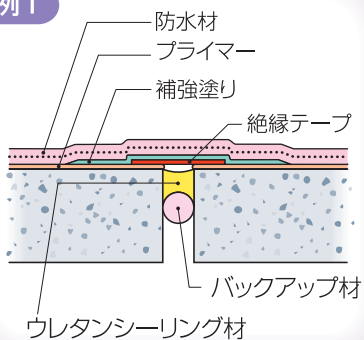


●出隅

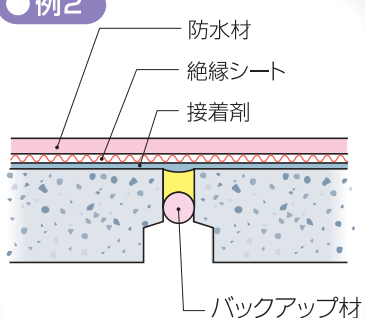


PC板

●例1

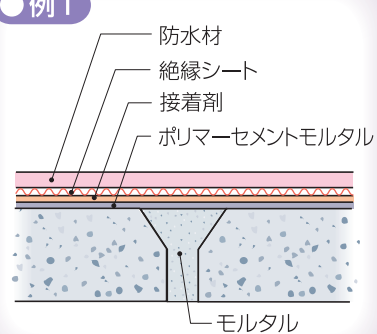


●例2



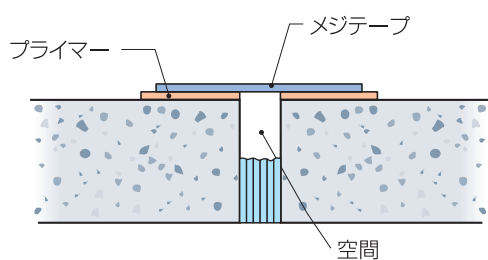
ALC板

●例1

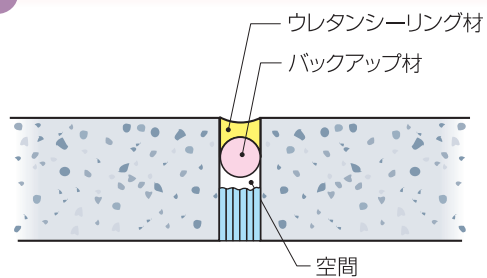


伸縮目地の処理

●例1

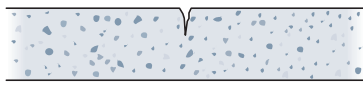


●例2

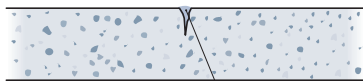


下地ひび割れ

● 1mm未満のひび割れ

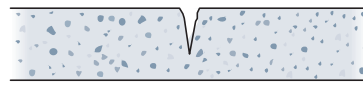


ウレタンシーリング材
若しくはモルタルを
擦り込む

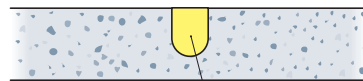


モルタル

● 1mm以上のひび割れ

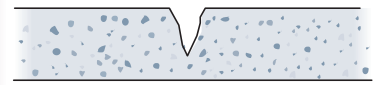


Uカット後にウレタン
シーリング材を充填

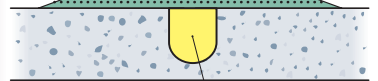


ウレタンシーリング材

● 2mm以上のひび割れ



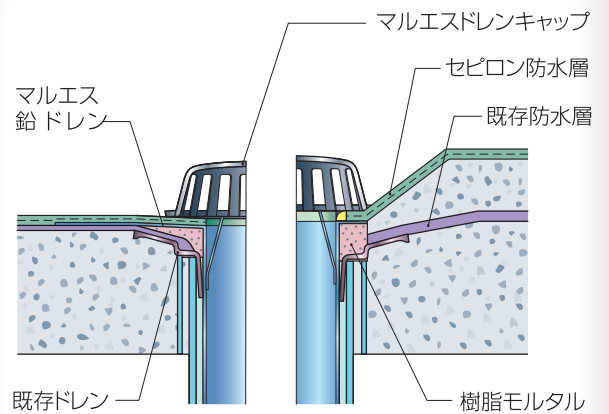
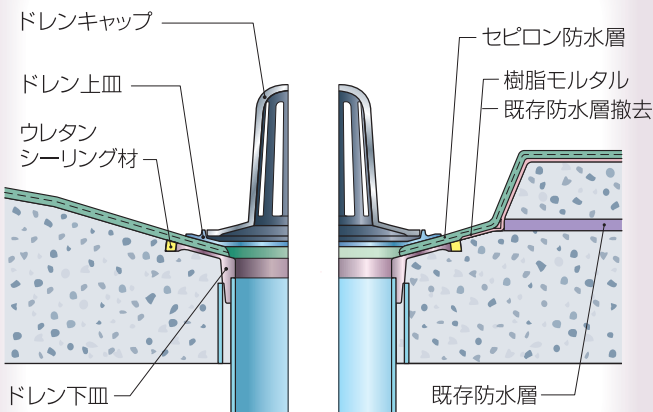
Uカット後にウレタン
シーリング材を充填
その上部に補強塗りを
行う



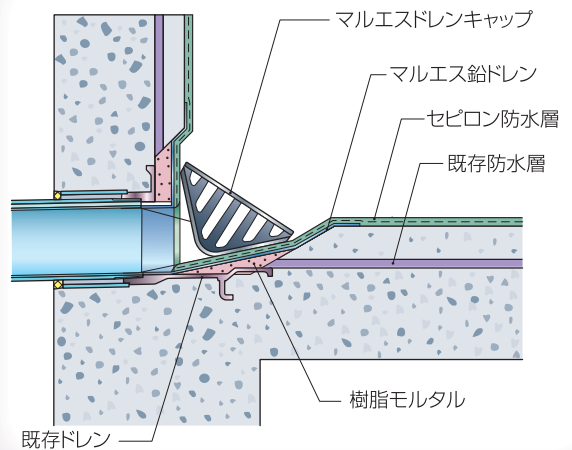
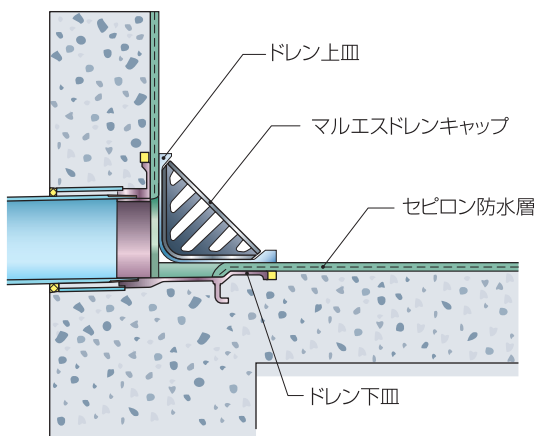
ウレタンシーリング材

補強塗り

縦引ドレン



横引ドレン



プライマー類

USプライマー-C1

F☆☆☆☆



溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。セメントとの混合無しでも使用可能ですが、セメントと重量比1：0.5～1で混合すると、セメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。

規格	17kg/缶入
色	褐色透明液体
希釈の可否	キシレン30%まで
危険物種別	第4類第二石油類

USプライマー-C2

F☆☆☆☆



溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。浸透型プライマーとして、脆弱なコンクリートや、浸み込みやすい下地の下塗りとして使用します。

規格	16kg/缶入
色	淡黄色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第一石油類

USプライマー-C3

F☆☆☆☆



環境配慮型弱溶剤1成分型ウレタン系プライマーです。セメントとの混合無しでも使用可能ですが、セメントと重量比1：0.5～1で混合すると、セメント粒子が下地からのピンホール抑制に効果的です。

主にセピロンE工法のコンクリート下地に使用します。

規格	17kg/缶入
色	黄褐色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第一石油類

USプライマー-M2

F☆☆☆☆



溶剤1成分型変性ウレタン系プライマーです。主に金属系の下地や、脱気筒、FRP下地等に塗布して使用します。

(下地面のサンディングを推奨します)

規格	0.5、17kg/缶入
色	淡黄色透明液体
希釈の可否	キシレン・トルエン30%まで
危険物種別	第4類第一石油類

USプライマー-M3

F☆☆☆☆



溶剤2成分型クロロレン系プライマーです。合成ゴムシート下地専用のプライマーです。

※一度開缶したら必ず使い切ってください。(再使用不可)

規格	16kg/セット (主剤15kg・硬化剤1kg)
色	主 剤：淡黄色粘稠液体 硬化剤：暗褐色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤：第4類第一石油類 硬化剤：第4類第一石油類

USプライマー-M4E



水性3成分型エポキシ系プライマーです。モルタル、コンクリート下地用の環境対応型プライマーです。ウレタン系防水材の層間プライマーとしても使用可能です。

※仕上塗料の層間プライマーとしては使用できません。

規格	16kg/セット (A液：4kg・B液：4kg・粉体：8kg)
色	A 液：乳白色液体 B 液：淡黄色液体 粉体：灰白色粉体
希釈の可否	不可
危険物種別	非危険物

USプライマー-M5

F☆☆☆☆



弱溶剤2成分型エポキシウレタン系プライマーです。主に既存下地がタールウレタンの場合に使用します。

規格	8kg/セット (主剤4kg・硬化剤4kg)
色	主 剤：淡黄色透明液体 硬化剤：無色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤・硬化剤：第4類第一石油類

USプライマー-M6

F☆☆☆☆



弱溶剤2成分型エポキシウレタン系プライマーです。主に既存下地がウレタン系防水材の場合のプライマーとして使用します。また、各種仕上塗料の層間プライマーとして使用可能です。

規格	8kg/セット(主剤4kg・硬化剤4kg)
色	主 剤：淡黄色透明液体 硬化剤：無色透明液体
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤・硬化剤：第4類第一石油類

カスタムプライマー-E



水性1成分型ゴムアスファルト系プライマーです。改質アスファルト複合絶縁工法「セピロンM工法」に使用するプライマーです。

規格	16kg/缶入
色	黒色液体
希釈の可否	不可
危険物種別	非危険物

カスタムプライマー



溶剤1成分型ゴムアスファルト系プライマーです。改質アスファルト複合絶縁工法「セピロンM工法」に使用するプライマーで、厳冬期等、水性が使用できない場合に使用します。

規格	16kg/缶入
色	黒色液体
希釈の可否	不可
危険物種別	第4類第二石油類

USプライマー-EPO



2成分無溶剤型エポキシ系プライマーです。モルタル、コンクリートや塩ビパイプ等様々な下地に使用可能です。

規格	16kg/セット(主剤12kg・硬化剤4kg)
色	主剤：乳白色 硬化剤：淡黄色
希釈の可否	不可
危険物種別	主剤：第4類第三石油類 硬化剤：第4類第三石油類

防水材

セピロンコートQ

JIS A 6021 認証品 F☆☆☆☆

環境配慮型の2成分型ウレタン系平場用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。



規格	18kg/セット (主剤6kg・硬化剤12kg)
色	グレー (主剤は無色透明液体)
硬化物比重	1.3
希釈の可否	キシレン5%まで*
危険物種別	主 剤: 第4類第三石油類 硬化剤: 可燃性液体類

*トルエン・トップコートシンナーでも同様に5%まで希釈できます。

セピロンコートQV

JIS A 6021 認証品 F☆☆☆☆

環境配慮型の2成分型ウレタン系立面・目止め用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。



※立面用を希釈する場合はだれ止め用を併用してください。

規格	18kg/セット (主剤6kg・硬化剤12kg)
色	グレー (主剤は無色透明液体)
硬化物比重	1.3
希釈の可否	キシレン5%まで*
危険物種別	主 剤: 第4類第三石油類 硬化剤: 非危険物固体

セピロンコートE

JIS A 6021 認証品 F☆☆☆☆

環境対応型の2成分型ウレタン系平場用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。



規格	18kg/セット (主剤6kg・硬化剤12kg)
色	グレー(主剤は無色透明液体)
硬化物比重	1.3
希釈の可否	NS溶剤5%まで
危険物種別	主 剤: 第4類第四石油類 硬化剤: 可燃性液体類

*各種防水材を小分けして使用する際は、硬化剤の上部を開缶し、攪拌機で均一に攪拌した後に、小分けしてください。(主剤は湿気硬化します)

セピロンコートEV

JIS A 6021 認証品 F☆☆☆☆

環境対応型の2成分型ウレタン系立面・目止め用防水材です。厳冬期でも硬化性に優れ、スピーディな施工が可能です。



※立面用を希釈する場合はだれ止め用を併用してください。

規格	18kg/セット (主剤6kg・硬化剤12kg)
色	グレー(主剤は無色透明液体)
硬化物比重	1.3
希釈の可否	NS溶剤5%まで
危険物種別	主 剤: 第4類第四石油類 硬化剤: 非危険物固体

仕上材

USTトップコートQ

F☆☆☆☆

溶剤2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。



規格	14kg/セット (主剤7kg・硬化剤7kg)
色	ライトグレー、グレー、グリーン、トープ、ベージュ
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第一石油類

USTトップクール

遮熱 F☆☆☆☆

遮熱性2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。太陽光からの赤外線効率よく反射し、建物への熱の流入を防ぐ塗料です。



規格	14kg/セット (主剤7kg・硬化剤7kg)
色	ライトグレー
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第一石油類

USTトップコートEX

高耐候 HALS F☆☆☆☆

環境対応型2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。「HALS」を含有しており、耐候性の良好な塗料です。2回塗りすることにより高耐久仕様となります。



規格	15kg/セット (主剤6kg・硬化剤9kg)
色	グレー、トープ、ベージュ
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第二石油類

USTトップクールEX

遮熱 高耐候 HALS F☆☆☆☆

遮熱性環境対応型2成分型アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。耐候性の高い「HALS」を配合し、更に「遮熱性能」を付与させた高耐久塗料です。



規格	15kg/セット (主剤6kg・硬化剤9kg)
色	ライトグレー、ライトグリーン、ベージュ
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第二石油類

*受注生産 納期や条件については、最寄りの営業所にお問合せください。

仕上材

USTトップコートSi

高耐候 HALS F☆☆☆☆



環境対応型2成分型シリコン変性アクリルウレタン系トップコートです。
セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。耐久性の高い「シリコン」と「HALS」をバランスよく配合した、高耐久塗料です。

規格	15kg/セット (主剤6kg・硬化剤9kg)
色	グレー、トープ、ベージュ
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第二石油類

グレー トープ ベージュ
● グレー以外、受注生産

USTトップクールSi

遮熱 高耐候 HALS F☆☆☆☆



遮熱性環境対応型2成分型シリコン変性アクリルウレタン系トップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。耐候性の高い「シリコン」「HALS」を配合し、更に「遮熱性能」を付与させた高耐久塗料です。

規格	15kg/セット (主剤6kg・硬化剤9kg)
色	ライトグレー、ライトグリーン、ベージュ
希釈の可否	不可
危険物種別	主 剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第二石油類

ライトグレー ライトグリーン ベージュ
● 受注生産

USTトップコートAL

F☆☆☆☆



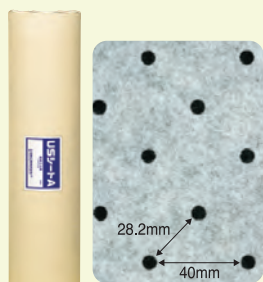
溶剤2成分型アクリルウレタン系シリバートップコートです。セピロンコート類の上に塗布し、耐久性・耐候性を向上させ防水層を保護します。

規格	12kg/セット (主剤6kg・硬化剤6kg)
色	シルバー
希釈の可否	専用トップコートシンナー 2kg/セット※
危険物種別	主剤: 第4類第二石油類 硬化剤: 第4類第一石油類

※トップコートシンナーを必ず添加してください。

シート・メッシュ類

USシートA



ポリエステル繊維系の絶縁(通気緩衝)シートです。通気効果とクラック緩衝効果を併せもちます。帯電防止効果に優れ、冬期の静電気の発生を抑制します。パンチ穴により下地になじみやすく、アンカー効果により下地と一体化させる効果があります。

※USシートA施工後は目止めとしてセピロンコートQV又はEVで施工します。

規格	1.2m×50m/巻
----	------------

USシートN



ポリエステル繊維系の絶縁(通気緩衝)シートです。通気効果とクラック緩衝効果を併せもちます。帯電防止効果に優れ、冬期の静電気の発生を抑制します。シート穴が無いいため、敷設後は平場用の防水材で施工する事が可能です。

※USシートN施工後はセピロンコートQ又はEで施工します。

規格	1.0m×50m/巻
----	------------

クロスK



ポリエステル繊維メッシュのクロスです。主に密着工法や、絶縁工法の立上りに使用します。ウレタン系塗膜防水材の膜厚を確保すると共に、塗膜強度の向上効果があります。

※クロスKをプライマーで張り付けることは、破断等の原因となるため、さけてください。

規格	1.02m×50m/巻
----	-------------

クロスG



ガラス繊維メッシュのクロスです。主に密着工法や、絶縁工法の立上りに使用します。ウレタン系塗膜防水材の膜厚を確保すると共に、塗膜強度の向上効果があります。

※クロスGをプライマーで張り付けることは、破断等の原因となるため、さけてください。

規格	1.04m×100m/巻
----	--------------

エムイーシート



粘着層付改質アスファルト系絶縁シートです。通気効果とクラック緩衝効果を併せもちます。平場で使用し、接合部はMXテープ、端部はテープJを施工した後、セピロンコートQV又はEVで増し塗りします。

規格	1m×15m/巻
----	----------

クロスKN



粘着層付ポリエステル繊維メッシュのクロスです。主に出入隅の増塗りに使用します。ウレタン系塗膜防水材の膜厚を確保すると共に、塗膜強度の向上効果があります。

規格	100mm×50m/巻
	200mm×50m/巻

接着剤

USボンド

F☆☆☆☆

無溶剤2成分型ウレタン系接着剤です。

主にコンクリート・モルタルと絶縁シートを接着させるために使用します。



規格	10kg/セット (主剤2kg・硬化剤8kg)
危険物種別	主 剤: 第4類第四石油類 硬化剤: 非危険物固体

ボンドK

溶剤1成分型クロロプレンゴム系接着剤です。

主にコンクリート・モルタルと絶縁シートを接着させるために使用します。



規格	15kg/缶
危険物種別	第4類第一石油類

テープ類

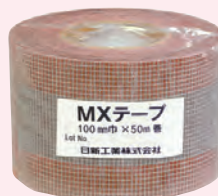
USテープ



「USシートA(N)」の接合部処理用粘着テープです。シート間の通気性を確保し、より通気効果を高めます。

規格	50mm×50m/巻
----	------------

MXテープ



「エムイーシート」の接合部処理用テープです。施工後は、セピロンコートQV(EV)で増し塗りします。

規格	100mm×50m/巻
----	-------------

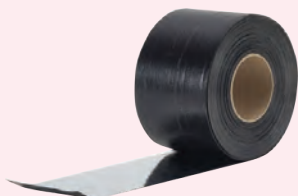
テープJ



「エムイーシート」の端部処理用テープです。施工後は、セピロンコートQV(EV)で増し塗りします。

規格	100mm×25m 4巻入/箱
----	-----------------

メジテープ

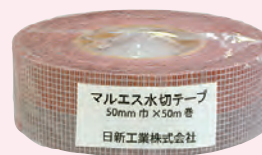


既存保護コンクリートの伸縮目地処理用粘着層付金属テープです。カッターやハサミでカットし、1スパン毎に5mm程度空けて張り付けます。

● 受注生産

規格	100mm×16m 厚さ1.0mm
----	-------------------

マルエス水切テープ



パラペットアゴ下用の粘着付水切テープです。アゴ下より5～10mm程度はみ出すように張り付けます。

※右巻・左巻あり。
粘着メッシュ部を上にして使用します。

規格	50mm×50m/巻
----	------------

粗面仕上材

トップファイラー



規格	0.42kg/袋
----	----------

シンナー類

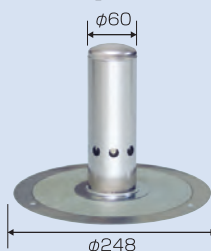
トップコートシンナー



規格	14kg/缶
----	--------

脱気装置

脱気太郎



規格	高さ180mm 2個入/箱
----	---------------

※粗面仕上げはp.16参照

※受注生産 納期や条件については、最寄りの営業所にお問合せください。

その他の副資材

だれ止め剤



「セピロンコートQ・E」（平場用）に少量添加することにより、緩勾配に使用する事が可能です。

※だれ止め剤は、セピロンコートを1分程度攪拌した後に添加し、さらに攪拌してください。

規格 1kg/缶

硬化促進剤VI



セピロンコート類の硬化を促進させます。

※添加量はp.19の「防水材の可使・硬化時間の目安」をご参照ください。

規格 1kg/缶

マルエス鉛ドレンM

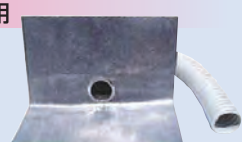
マルエス鉛ドレンM

縦用



■ 外寸法：330mm×330mm×(H)150mm
■ 板厚：1.5mm

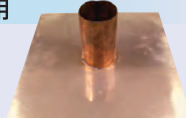
横用



■ 外寸法：330mm×330mm
■ ホース長：500mm
■ 板厚：1.5mm

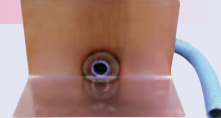
マルエス銅ドレン

縦用



■ 外寸法：365mm×365mm×(H)150mm
■ 板厚：本体部0.5mm
筒部0.7mm

横用



■ 外寸法：365mm×365mm
■ ホース長：600mm
■ 板厚：本体部0.5mm
筒部0.7mm

縦用

	呼称	内径 (mm)	外径 (mm)	許容最大屋根面積 (m ²)
鉛ドレンM	φ40	34	37	23.9
	φ50	43	46	44.7
	φ60	52	55	74.3
	φ70	60	63	108.8
	φ80	72	75	176.9
	φ90	84	87	266.8
銅ドレン	φ75	56.6	58.0	93.1
	φ100	78.1	79.5	219.7

横用

	呼称	ドレン内径 (mm)	ジャバラ内径 (mm)	ジャバラ外径 (mm)	許容最大屋根面積 (m ²)			
					配管こう配			
					1/25	1/50	1/75	1/100
鉛ドレンM	φ50	34	38.2	44.5	24.4	—	—	—
	φ60	43	50.8	57.8	45.6	32.2	—	—
	φ75	60	63.5	71.2	110.8	78.3	64.0	—
	φ90	72	76.2	84.6	180.2	127.4	104.0	90.1
	φ100	84	88.9	97.7	271.8	192.2	156.9	135.9
	φ125	92	101.3	110.5	346.4	244.9	200.0	173.2
銅ドレン	φ75	60.8	63.5	72.6	114.8	81.2	66.3	57.4
	φ100	73.4	76.2	85.8	189.7	134.1	109.5	94.8

※【SHASE-S 206-2019 給排水衛生設備基準・同解説】 4. 雨水排水管径の決定により算出（許容最大屋根面積は、雨量100mm/hを基礎として算出しているもので、流速が0.6m/s未滿または1.5m/sを超えるものは好ましくないため除外（-を記入））

マルエスアルミドレンキャップ

■ 縦・大



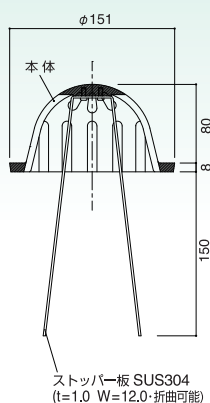
適用径 φ50～100

■ 縦・小



適用径 φ30～75

マルエスドレンキャップ・縦（鉄鋳物）



適用径 φ50～110

マルエスアルミドレンキャップ

■ 横・中・自在



適用径 φ50～100

■ 横・小・平



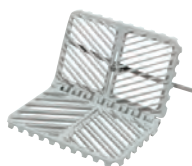
適用径 φ40～65

■ 横・小・L



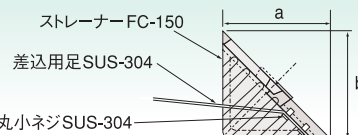
適用径 φ40～65

■ 横・大・自在



適用径 φ75～150

マルエスドレンキャップ・横（鉄鋳物）



	適用径	a	b
標準	φ50～100	97	97
大	φ100～125	110	125

セピロン材料一覧表

種類	品名	内容	荷姿	備考
防水材	セピロンコートQ	環境配慮型ウレタン塗膜防水材 平場用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形認証品	主剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートQV	環境配慮型ウレタン塗膜防水材 立面用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形認証品	主剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートE	環境対応型ウレタン塗膜防水材 平場用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形認証品	主剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
	セピロンコートEV	環境対応型ウレタン塗膜防水材 立面用 グレー JIS A 6021 ウレタンゴム系高伸長形認証品	主剤 6kg 硬化剤 12kg	F☆☆☆☆
仕上材	USTトップコートQ	環境配慮型アクリルウレタン系トップコート ライトグレー、グレー、グリーン、トープ、ベージュ(ライトグレー、グレー、グリーン以外、受注生産)	主剤 7kg 硬化剤 7kg	F☆☆☆☆
	USTトップコートEX	環境対応型アクリルウレタン系トップコート グレー、トープ、ベージュ(グレー以外、受注生産)	主剤 6kg 硬化剤 9kg	F☆☆☆☆
	USTトップコートSi	環境対応型シリコン変性アクリルウレタン系高耐久トップコート グレー、トープ、ベージュ(グレー以外、受注生産)	主剤 6kg 硬化剤 9kg	F☆☆☆☆
	USTトップクール	環境配慮型アクリルウレタン系遮熱性トップコート ライトグレー	主剤 7kg 硬化剤 7kg	F☆☆☆☆
	USTトップクールEX	環境対応型アクリルウレタン系遮熱性トップコート ライトグレー、ライトグリーン、ベージュ(全て受注生産)	主剤 6kg 硬化剤 9kg	F☆☆☆☆
	USTトップクールSi	環境対応型シリコン変性アクリルウレタン系遮熱性トップコート ライトグレー、ライトグリーン、ベージュ(全て受注生産)	主剤 6kg 硬化剤 9kg	F☆☆☆☆
	USTトップコートAL	アクリルウレタン系シルバートップコート	主剤 6kg 硬化剤 6kg	F☆☆☆☆
	プライマー・下地調整材	USプライマーC1※1	コンクリート・モルタル用(一般用)	17kg
USプライマーC2		コンクリート・モルタル用(脆弱部用)	16kg	F☆☆☆☆
USプライマーC3※1		コンクリート・モルタル用	17kg	F☆☆☆☆
USプライマーM2		金属、その他多目的用	0.5kg、17kg	F☆☆☆☆
USプライマーM3		ゴムシート用	主剤 15kg 硬化剤 1kg	F☆☆☆☆
USプライマーM4E		コンクリート・モルタル用水系プライマー	混和液(A液4kg・B液4kg) 粉体 8kg	—
USプライマーM5		タールウレタン下地用	主剤 4kg 硬化剤 4kg	F☆☆☆☆
USプライマーM6		ウレタントップコート塗継用	主剤 4kg 硬化剤 4kg	F☆☆☆☆
USプライマーEPO		2成分無溶剤型エポキシ系プライマー	主剤 12kg 硬化剤 4kg	—
USプライマーEPO(W)		2成分溶剤型エポキシ系プライマー	主剤 10kg 硬化剤 5kg	使用可能温度 15℃以下
カスタムプライマーE		アスファルト系水性プライマー	16kg	エムイーシート施工用
カスタムプライマー		アスファルト系プライマー	16kg	エムイーシート施工用
フィットリーチ		水性アクリル樹脂系下地調整材	主剤 25kg、混和剤 4kg	—
シート・クロス類	USシートA	絶縁工法用シート(穴ありタイプ)	1.2m×50m	アクリル/ポリエステル繊維不織布
	USシートN	絶縁工法用シート(穴なしタイプ)	1m×50m	ポリエステル繊維不織布
	クロスK	補強布(合成繊維)	1.02m×50m	—
	クロスG	補強布(ガラス繊維)	1.04m×100m	—
	クロスKN	粘着層付補強布(合成繊維)	100mm、200mm×50m	—
	エムイーシート	複合絶縁工法用改質アスファルトシート	1m×15m、t=1.0mm	—
接着剤	USボンド	2成分無溶剤型ウレタン系接着剤	主剤 2kg 硬化剤 8kg	F☆☆☆☆
	ボンドK	1成分クロロプレンゴム系接着剤	15kg	—
テープ類	USテープ	USシート用ジョイントテープ	50mm×50m	—
	MXテープ	エムイーシート用ジョイントテープ	100mm×50m	—
	テープJ	エムイーシート用端末テープ	100mm×25m、4巻入/箱	—
	マルエス水切テープ	パラペットアゴ下専用防水テープ	50mm×50m	—
	メジテープ	目地処理用粘着層付金属テープ(受注生産)	100mm×16m、t=1.0mm	—
副資材	トップフィルター	粗面仕上材用無機質系フィルター	0.42kg	—
	トップコートシンナー	専用希釈剤	14kg	—
	セピロンSPトナー	防水材用トナー ブルー(受注生産)	8kg/缶 700g/ビン	添加量: 硬化剤に対して 重量比で1%以下先混ぜ
	NSハイバドレン	飛散防止機構付改修ドレン(全国防水リフレッシュ連合会専用品)	2個/箱	—
	だれ止め剤※2	セピロンコート類用だれ止め剤	1kg	—
	硬化促進剤V※3	プライマー、接着剤用硬化促進剤	200g	—
	硬化促進剤VI※3	セピロンコート類用硬化促進剤	1kg	—
	脱気太郎	ステンレス製脱気装置	2個/箱	—
NSソルベント	環境対応型希釈剤	18L	—	

※1. USプライマーC10・C30は、USプライマーC1・C3とポルトランドセメントを重量比1:0.5~1の割合で混合したものです。

※2. だれ止め剤は勾配がある場合等に使用します。使用量はセピロンコートQ(E)1セット当たり120g以下とします。
また、セピロンコートQ(E)にだれ止め剤を入れたものを立面に使用しないでください。

※3. 硬化促進剤の添加量、使用方法はp.19、20をご参照ください。

※受注生産 納期や条件については、最寄りの営業所にお問合せください。

セピロン防水の施工上の注意

下地について

1 下地の乾燥

下地の乾燥が不十分な状態で防水工事を行うと、後々の防水層の膨れの原因となる場合があります。特に新設のコンクリート(モルタル)は、夏期で3週間、冬期で4週間以上の養生が必要となります。

下記のような方法で下地の乾燥具合を確認した後、防水の施工を行ってください。

- 高周波水分計により下地水分を計測

2 下地の調整

① 出隅部、入隅部の処理

入隅部は通りよく直角仕上げとしてください。出隅部は、3~5mm程度の面取りを行ってください。

② 下地の不陸調整

下地の凸部分や突起異物は、サンダーなどで除去してください。また、下地の欠損部分や水溜まりのできる箇所は、下地調整材の「フィットリーチ」などで平滑に仕上げてください。

③ 下地勾配の確認

下地の勾配は1/100~1/20の範囲に納まるようにしてください。勾配の調整には「フィットリーチ」等で処理してください。

④ 下地の浮き

下地の浮きのある場合や脆弱な部分があるときは、その部分を研り取った後「フィットリーチ」等で平滑に仕上げてください。下地の浮きが小さな場合にはエポキシ系の注入材で処理することもできます。

⑤ 下地のクラック部の処理

下地に1mm以上のクラックが生じている部分はUカットし、ウレタン系シーリング材を充填して、平滑に処理してください。

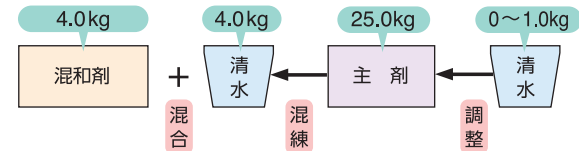
⑥ 下地の清掃

塵埃、脂分、接着剤などの下地表面の汚れは、下地の清掃とともに除去してください。又、レイタンスは除去して、下地の脆弱部分も処理しておいてください。

■ フィットリーチ

1mm厚仕上げ 配合例 (約20m²)

主として電動攪拌機を使用します。



※フィットリーチの詳細は、「下地調整材」カタログをご参照ください。

3 目地の処理

下地に伸縮目地材がある場合は、既存目地を除去した後にバッカーを埋め込み、ウレタン系シーリング材を充填するか、既存目地を除去し、メジテープで処理します(セピロンM工法の場合はメジテープ処理のみ)。メジテープは予めプライマーを塗布した後に施工し、浮きのないように転圧します。その際、メジテープは目地1スパンの長さで切断して貼り付け、メジテープの間は5mm程度開けます。

※メジテープ施工直後は、膨れることがありますので、脱気装置を50m²に1個程度を目安に併用してください。

※PCa下地の目地の場合は、補強布「クロスK」や「クロスG」を用いて「セピロンコートQ(又はE)」の補強塗りを行ってください。

4 貫通パイプ回りの処理

金属製パイプは錆や塗料を除去した後、樹脂製パイプは目荒らしの処理後、専用プライマーを塗布し、補強布「クロスK」や「クロスG」「クロスKN」を用いて、防水材の補強塗りを行ってください。

5 改修用ドレンの設置

下地の既存ドレンの状況など必要に応じて「マルエス鉛・銅ドレン、NSハイパドレン」を設置してください。

改修工事における既存防水層の処理

既存防水層の種類	部位	既存防水層・保護層の処理	
		非撤去	撤去
露出防水	平場	著しい膨れ、浮きは修繕をする。	下地の損傷に注意して防水層、断熱層を撤去し、下地調整を行う。
	立上り	原則として下地の損傷に注意して防水層を撤去し、下地調整を行う。	下地の損傷に注意して防水層を撤去し、下地調整を行う。
保護防水	平場	下地調整を行う。 目地の処理を行う。	下地の損傷に注意して防水層、保護層、断熱層を撤去し、下地調整を行う。
	立上り	原則として下地の損傷に注意して防水層、保護層を撤去し、下地調整を行う。	下地の損傷に注意して防水層、保護層を撤去し、下地調整を行う。

セピロン防水の施工環境

1 天候の条件

① 施工時の気温

「セピロンコートQ(又はE)」は材料温度が -5°C の低温時にも施工は可能ですが、施工面に結氷や霜が付着すると下地への接着不良を起こしますので、施工にあたっては気候の条件に十分な注意を払ってください。

② 施工の中止

降雨、降雪、強風が予想される場合は施工を中止してください。

2 防水材料の粘度調整

気温その他施工にあたって「セピロンコートQ」や「セピロンコートE」の材料粘度を調整しなければならない場合には、次の通り必ず指定の希釈剤を使用してください。その際の使用量の限度は、主剤と硬化剤の合計量の重量5%以内としてください。

- セピロンコートQの場合は、キシレンまたはトルエンを使用してください。
- セピロンコートEの場合は、非芳香族系の低臭環境対応型希釈剤「NSソルベント」を使用してください。
- アルコール類が含有されているエポキシ樹脂用シンナーや塗料用シンナーの使用は反応を阻害しますので絶対に使用しないでください。

セピロン防水施工の安全管理

1 保護具の着用

「セピロンコートQ」、「セピロンコートE」はウレタン塗膜防水材の中で、極めて有害性物質の少ない製品ですが、取り扱いにあたっては保護具、安全帽、保護眼鏡、保護手袋、保護マスクの着用を励行してください。

2 危険物の取り扱い

セピロン防水工法の製品のうち幾つかは消防法で定める危険物に該当します。施工にあたって、材料の運搬、保管、貯蔵や取り扱いについて十分に配慮してください。

3 作業環境の管理

防水施工にあたっては、常に作業上の危険や事故防止に配慮してください。また、施工現場ばかりでなく、周辺地域に対しても十分な配慮をしてください。

セピロン防水攪拌注意事項

1 セピロンコート類

- ① 硬化剤は予め攪拌機を用いて攪拌しておく。
- ② 主剤を別のポリバケツに移す。
- ③ 主剤に少しずつ硬化剤を入れながら攪拌する。

2 トップコート類

- ① 硬化剤を攪拌する。
- ② 硬化剤をポリバケツに移す。
- ③ 硬化剤に少しずつ主剤を入れながら攪拌する。

注意事項

攪拌機は低回転型(300~600回転/分程度3枚羽根タイプ)を推奨します。ロットの違うトップコートを混合しないでください。

セピロン防水層の維持管理

セピロン防水層の健全を保ち、長期にわたって防水性能を維持するためには、施工後からの維持管理が重要です。施主および建物管理者に以下のような管理をお願い致します。

1 維持管理のお願い

- ① 定期的に点検・清掃を行い、飛来物や排水溝の泥、枯葉等の詰まりを除去し、水溜まりのないようにしてください。
- ② 保護の塗料が薄くなっている、剥離を起こしている、ひび割れがある等の異常が認められた場合は、施工業者に連絡してください。
- ③ 「トップコート」塗り替えについてはp.16をご参照ください。

2 使用上の注意

- ① ハイヒールやスパイクシューズなどで歩行すると、防水層を損傷する恐れがあります。防水層の上を歩行する場合はゴム底の履物、またはスリッパを使用してください。
- ② 防水層の上で火気を使用しないでください。タバコの吸い殻の投げ捨てや花火をすると、防水層の損傷の原因となります。
- ③ 溶剤、ガソリン、不凍液等の薬品をこぼさないでください。防水層が軟化し、膨れや剥がれを生ずる原因となります。
- ④ 重量物を引きずったり、落としたりしないでください。
- ⑤ イス、テーブル等を置く場合は、脚をゴム等で保護してください。
- ⑥ ゴルフや一輪車の練習は行わないでください。
- ⑦ 防水層の上で犬、ウサギ、鶏等のペットは飼わないでください。糞尿は防水層を劣化させます。
- ⑧ 洗浄には中性洗剤以外の洗剤は使用しないでください。
- ⑨ クーリングタワーに使用する防藻剤や殺菌剤は、種類によって防水層に損傷を与えますのでご注意ください。
- ⑩ 表面が水で濡れている場合は、滑りやすいので歩行する場合は注意してください。

防水層の補修、トップコートの塗り替えは専門技術が必要です。弊社又は専門工事に依頼してください。(有償)



- 当カタログのデータは全て性能値であり保証値ではありません。
- カタログに掲載してある製品の色は実際のものとは印刷インキの再現上、多少異なる場合があります。
- 材料、仕様は予告なく変更する場合があります。
- 製品の保管及び取扱いについては、SDSをご参照の上、ご使用ください。

防水のことがわかるニッシン・オフィシャルサイト <https://www.nisshinkogyo.co.jp/>



総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

☎ 0120-86-2424

■ 本社／営業統括部 〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4TEL.(03)3882-2571
■ 関 東 TEL.(03)3882-2641 ■ 九 州 TEL.(092)451-1095 ■ 広 島 TEL.(082)541-5033
■ 大 阪 TEL.(06)6263-7711 ■ 札 幌 TEL.(011)215-1034 ■ 工 場 埼 玉・山 形
■ 名 古 屋 TEL.(052)933-4761 ■ 仙 台 TEL.(022)393-7209